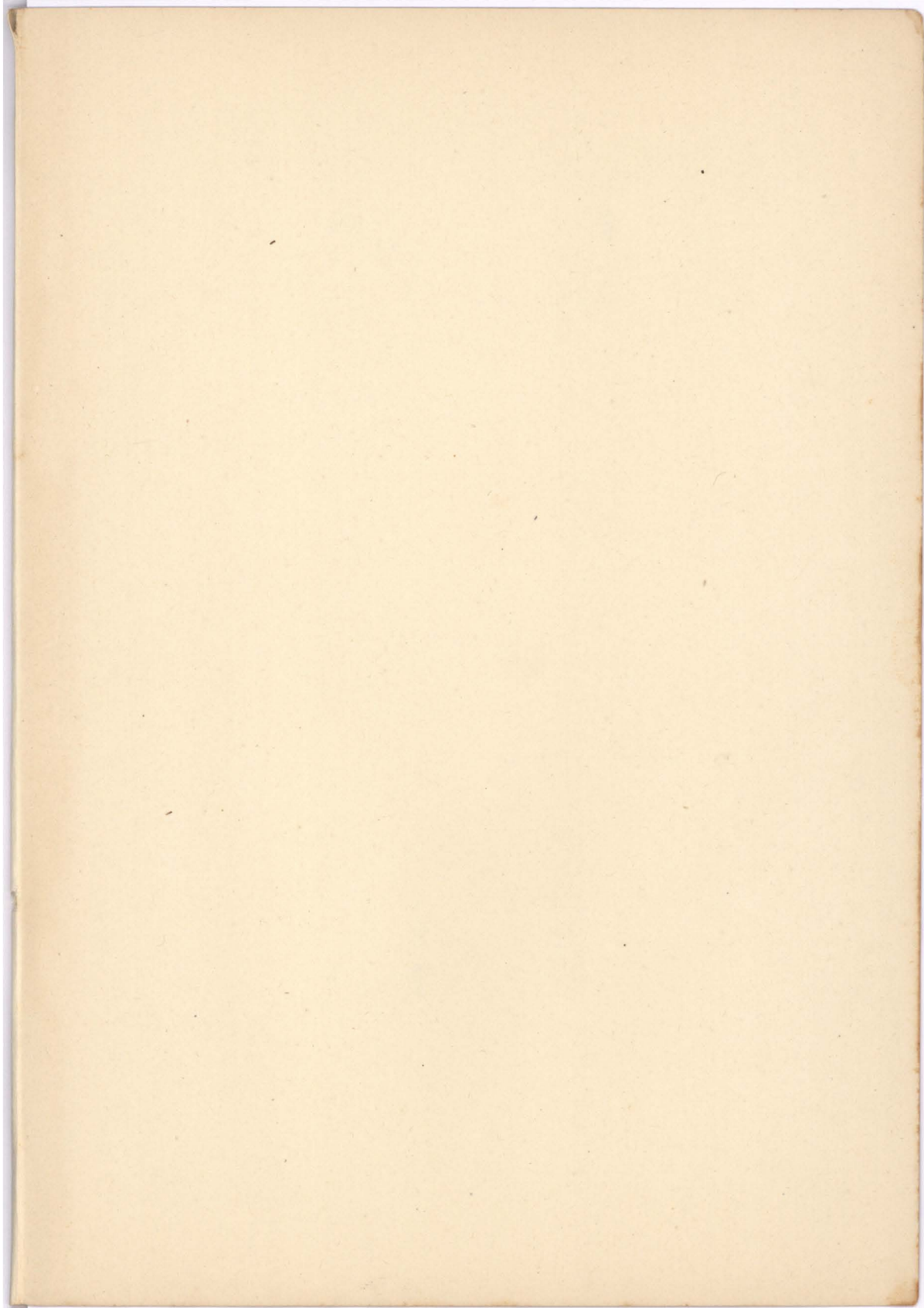
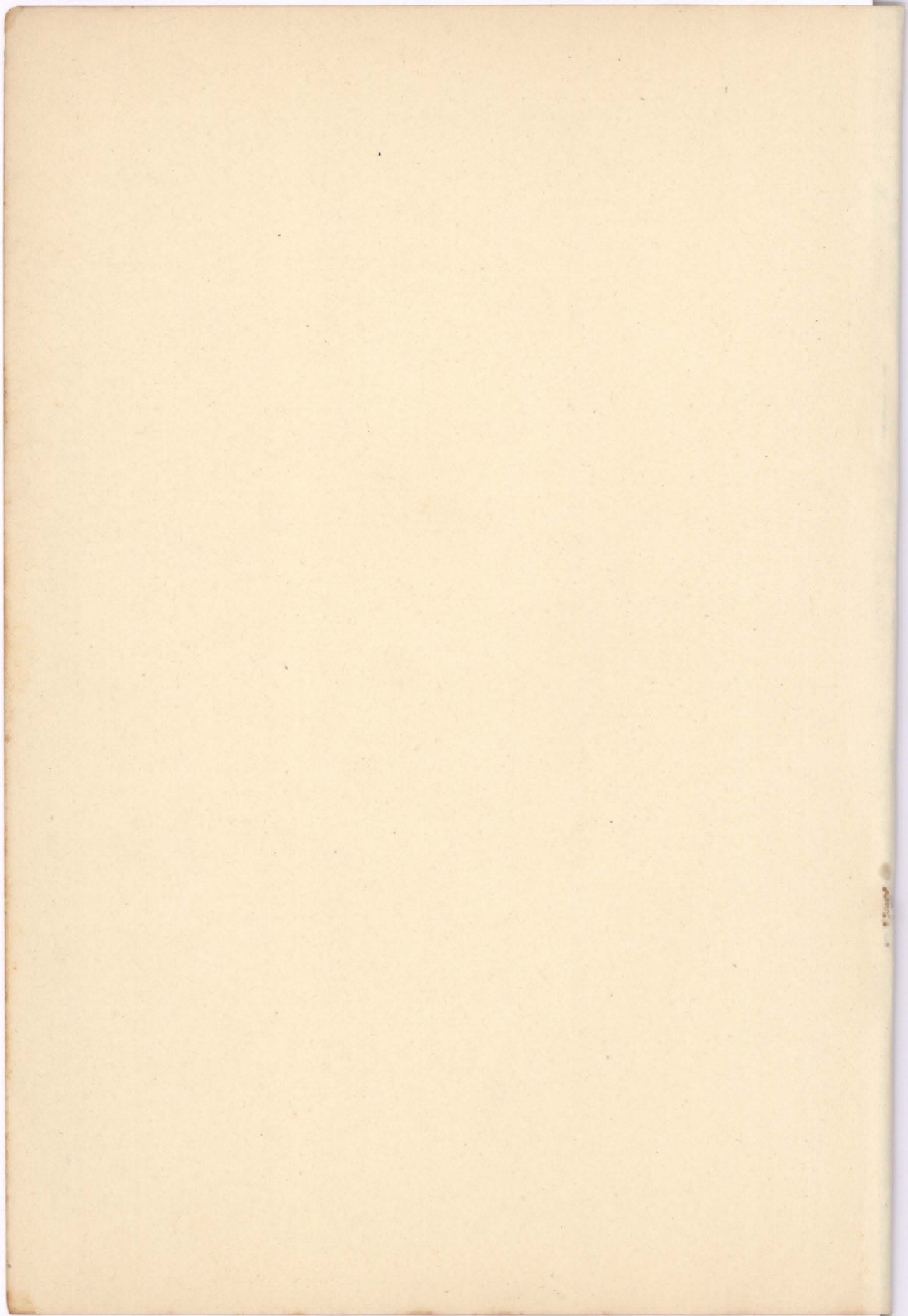


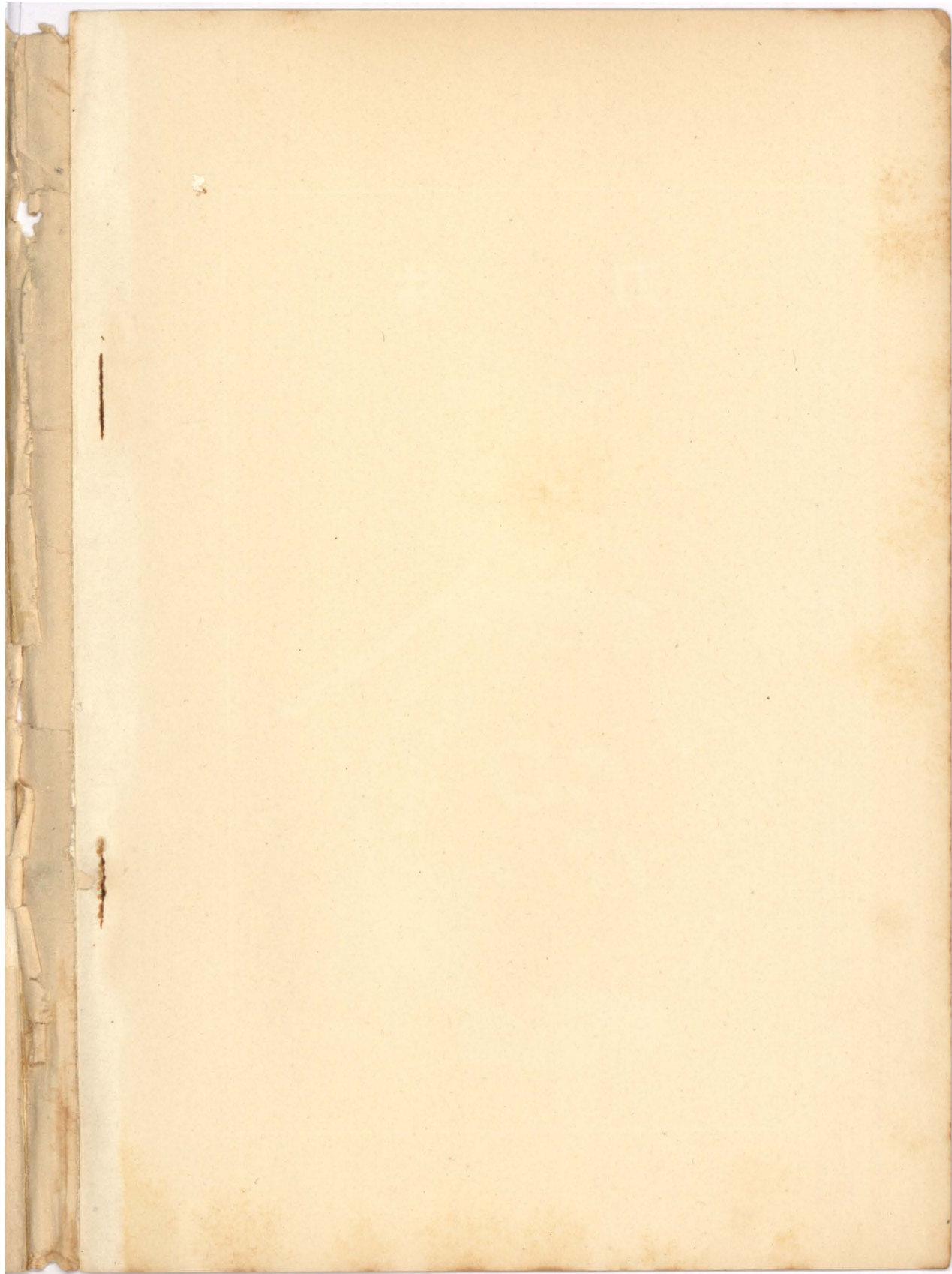
刀 林

12







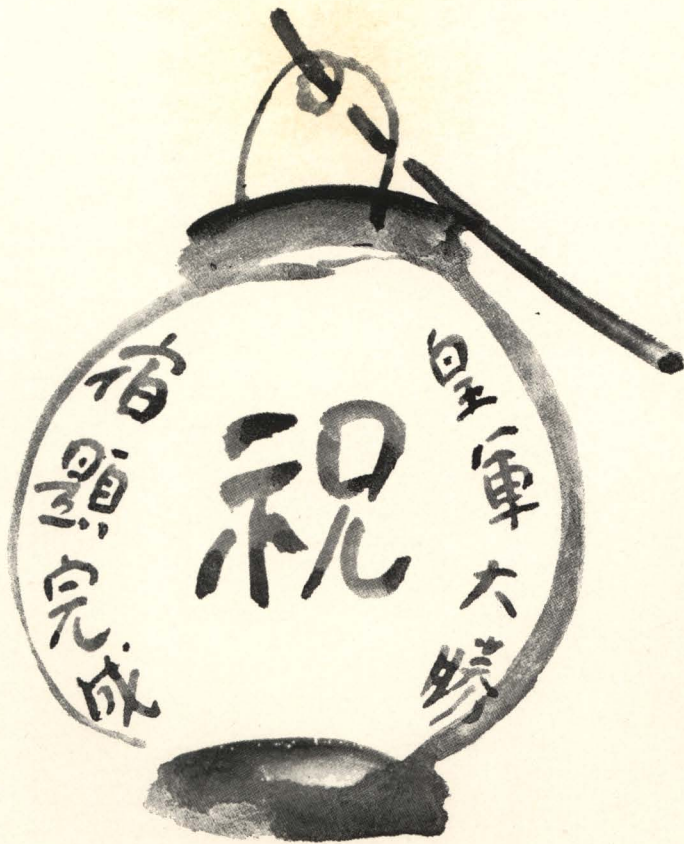


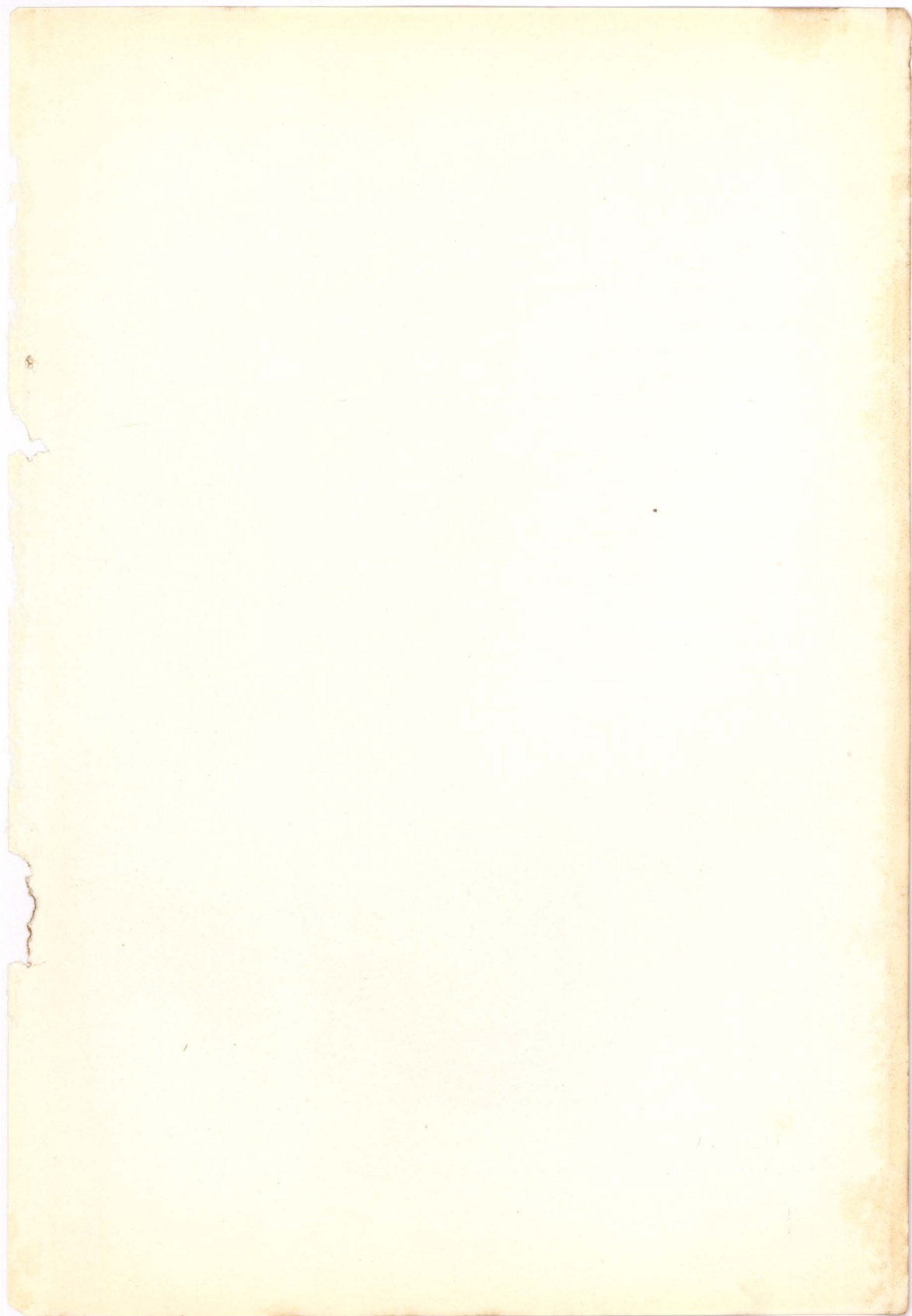


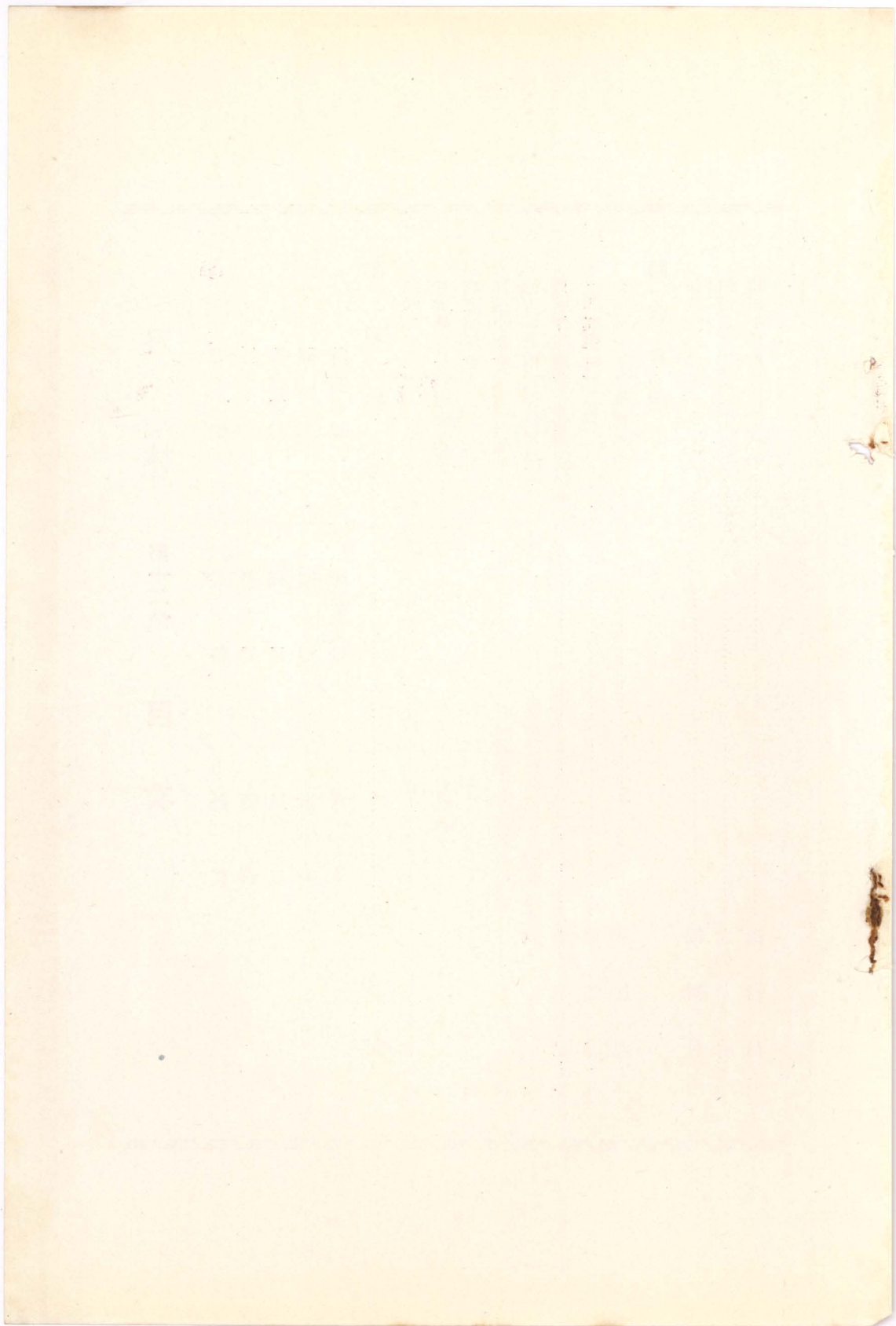


刀 林

第十二號







寫眞(出征會員慰問)

日本讚歌

短句二つ

感謝の歌

興城便り

脾肉の嘆

銃後戦線に出でて

星ヶ浦より

土肥便り

高橋福三郎君の死を悼む

鑛山小話二つ

十月の日記

高原にて

動物園にて

机上の林檎

飛行機

宙妖凸鬼退治

濟生會落話(文身外四つ)

同窓會記事

同窓會總會及謝恩會

御禮の言葉 並、お知らせ

同窓會々計報告

同窓會々則(附内規)

醫局欄

葉山清遊之記

歡迎旅行記

箱根八句

下谷病院便り

茂木、大槻外科懇親會

新入局員紹介

醫局日誌抜抄

同窓會々員名簿

編輯後記

醫局 生 五

治生 五

同 六

神山敏雄 七

小田滿 六

吉岡勝衛 元

加藤銀治郎 三

相見三郎 三

小密茶庵 三

濱名生 三

古山實 天

伊藤國男 四

小平兜 四

多香子 五

同 五

あかん兵衛 五

ひかる 五

編 輯 員 六

編 輯 員 六

編 輯 員 六

幹 事 六

岡品男 六

編 輯 員 七

川柳一年生 七

名倉生 七

編 輯 員 七

NGY 生 七

編 輯 員 七

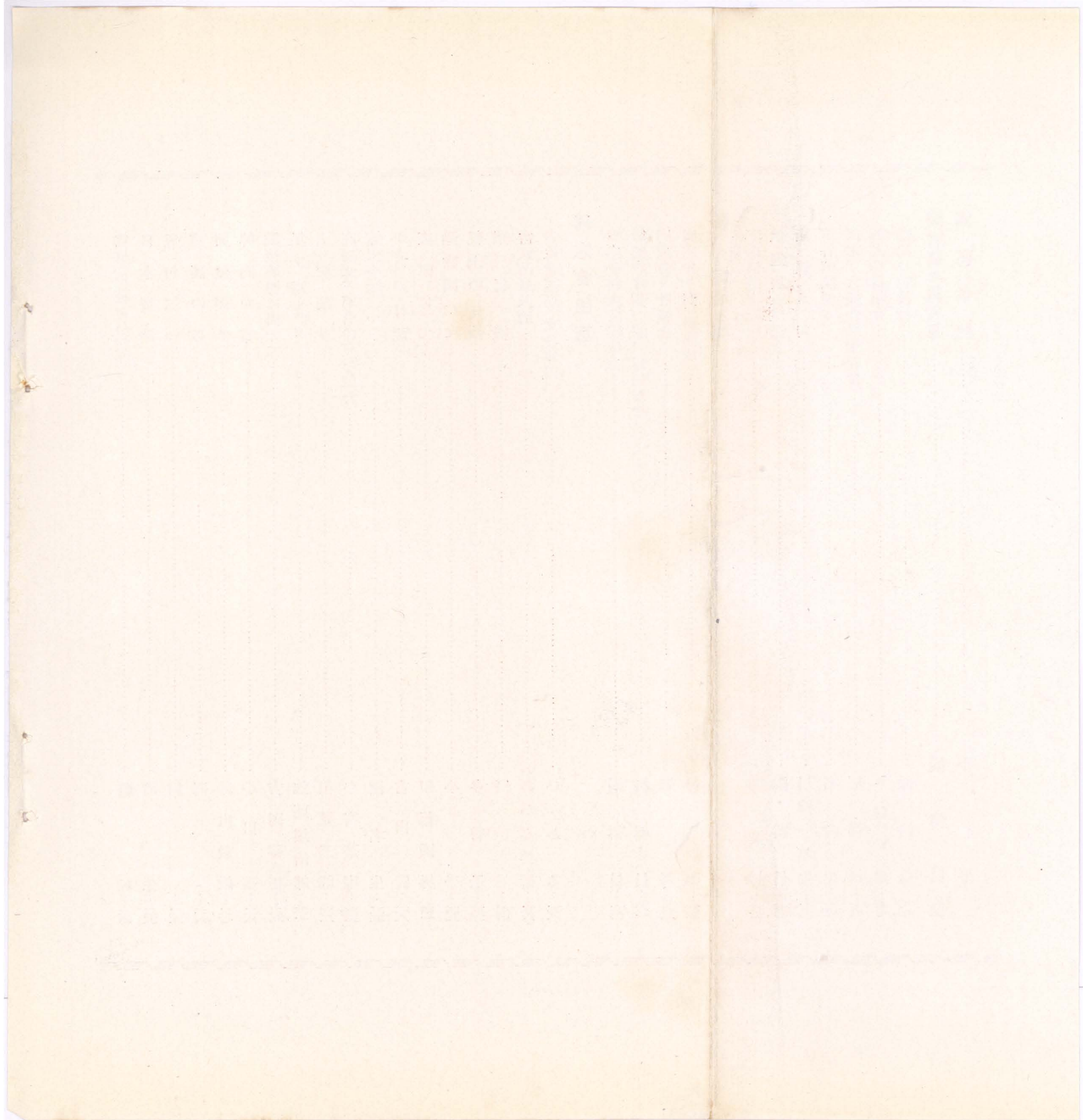
編輯員 七

編輯員 七

編輯員 七

編輯員 七

編輯員 七



第三八回日本外科学會 (於東京帝大)

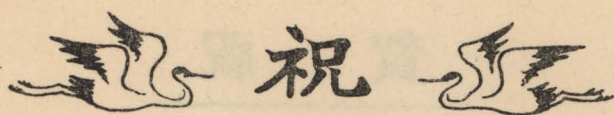


宿題報告擔當の四先生と
高橋會長の挨拶



茂木教授の御講演に聞き入る聴衆





御慶事

昭和十二年十一月十八日茂木先生には山内豊文氏を御養子として迎へられ御長女千鶴子嬢と御芽出度く華燭の典を擧げられました。同窓會員一同衷心より御壽ぎ申し上げ、先生御一家の御繁榮を御祈り申し上げます

茂木山之内御兩家御婚儀を祝して

豊かなる山の茂木に文なして
千鶴うちつとひ祝ひ舞ふらん

祝 賀

論文通過

古川

宥

明

君

昭和十二年二月

瀬尾

三

君

君

三月

牛久

昇

治

君

同 四月

吉岡

勝

衛

君

同 六月

布留

文

夫

君

同 七月

高木

宗

吉

君

同 十月

竹下

貫

一

君

同 十一月

森山

成

一

君

同 十一月

昇格

外科講師

瀬尾宥三君

昭和十二年二月

外科助教授

鎌田竹次郎君

同 三月

整形外科講師

野崎寛三君

同 六月

慶 事



結 婚

奧	安	玉	名	渡	武	佐	石	小	中	山	野
山		村			藤	藤	川	林	山	田	崎
俊	齊	一	倉	邊	太	壽	七	不	一	庸	寬
雄	直	雄	厚	昇	郎	郎	郎	夫	郎	夫	三
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	昭
											和
											十
											二
											年
											一
											月
十	十	十	十	五	五	四	四	四	四	二	
二	一	一	一	月	月	月	月	月	月	月	
月	月	月	月								

賀 祝



入 營

權	城	長	中	田	軍	山	渡	大	名	工	松	小
守	屋	島	邊	地	田	邊	沼	和	藤	浦	田	
英	俊	信	三	重	良	二	重	良	達	四		
夫	輔	美	次	信	亮	郎	雄	雄	精	之	郎	滿
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

同	同	同	同	同	同	同	同	同	昭	同	同	昭
									和			和
									十			十
									二			一
									年	同	同	年
同	同	同	同	同	十	同	同	七	一			十
					一			月	月			二
					月							月

送 別

赴 任

轉 科

退 局

	小 林 不 二 夫 君	昭 和 十 二 年 三 月	中 島 飛 行 機 株 式 會 社 病 院
	弓 削 中 君 同	四 月	秋 田 縣、公 立 米 內 澤 病 院
	今 井 秀 雄 君 同	四 月	赤 羽、濟 生 會 病 院
	菅 千 里 君 同	四 月	岩 手 醫 專 分 院 盛 岡 病 院
	古 川 明 君 同	六 月	川 崎 市 佐 藤 病 院
	尾 村 偉 久 君 同	八 月	大 阪 警 察 部 衛 生 課
	木 本 多 喜 雄 君 同	八 月	大 阪 警 察 部 衛 生 課
	中 山 一 郎 君 同	十 月	濱 松、日 清 紡 績 診 療 所
	堀 田 善 二 郎 君 同	十 一 月	東 京 市 電 氣 局 病 院
	加 納 保 之 君 同	十 一 月	水 戶 市 外、晴 嵐 莊
	齋 藤 脩 二 君	昭 和 十 二 年 八 月	生 理 學 教 室 へ
	龍 野 一 男 君	昭 和 十 二 年 五 月	
	遠 山 一 郎 君 同	五 月	

張 出



井	小	櫛	合	安	辻	石	今	久	植	許	關	伊
手	林	田	原	齋	岡	川	井	保	草	添	口	藤
行		敏	義			七		秀			政	
乎	忠	也	泰	直	浩	郎	光	夫	實	旺	三	原
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

下谷病院

同

同

同

同

濟生會神奈川縣病院

橫濱警友病院

小樽病院 (臨時)

濟生會牛込分院 (臨時)

靜岡日赤病院 (臨時)

水戸常盤病院 (臨時)

濟生會神戸林田分院 (臨時)

陸軍々醫學校囑託 (臨時)

(順序不同)

弔

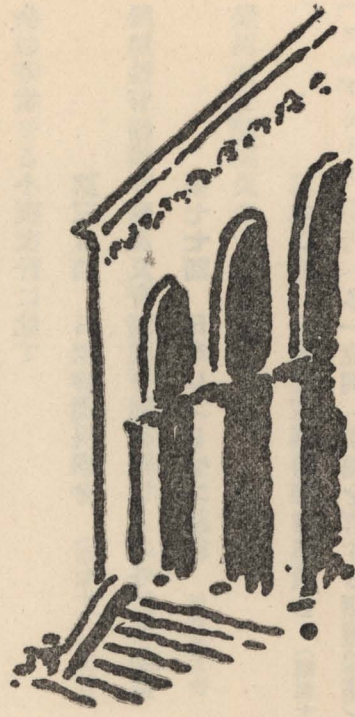


高橋福三郎君

昭和十二年六月二十八日逝去せらる
茲に謹みて哀悼の意を表す

會員家族

權守英夫君嚴父	小平正君嚴父	田村信介君嚴父	藤原道純君令夫人	竹下貫一君嚴父	今井秀雄君母堂	昭和十二年三月
同	同	同	同	同		四月
十月	十月	九月	九月	四月		三月



學術欄

第三八回 日本外科學會總會 (昭和十二年四月一、二、三日)

於 東大法學部講堂

一、日本人の後頭下深程並にその測定法に關する研究 (第三日)

大内正夫

二、宿題報告、急性蟲様突起炎 (第三日)

茂木村木 教授
木村 教授
田助 教授
鎌田 教授

第十二回 日本整形外科學會 (昭和十二年五月十五日、十六日)

於 熊本醫科大學

- 一、椎弓截除後に於ける脊柱のレ線所見に就て
- 二、脊髓外科の立場よりなせる脊髓硬膜の研究 (第一報) 正常人體脊髓硬膜の厚さに就て
- 三、後部椎間軟骨結節の臨床的知見

伊藤原
大内正夫
岩原助教授

四、癒性斜頸の手術 (十六ミリ映畫)

五、脊髓後根切斷に依る人體皮膚知覺像の臨床的吟味

六、「ミエログラム」の解釋に關する研究 一、限局性脊髓炎の「ミエログラム」

七、淋毒性關節炎のレ線所見に就て

八、淋毒性關節炎に於ける血清及關節炎の淋菌補體結合反應

第十八回 慶應醫學會 (昭和十二年十一月五日) 於 北里記念圖書館講堂

一、新たに考案されたる「ブノイモベントログラム」に就て

二、椎弓截除後に於ける脊柱機能の臨床的研究

生理學會 (昭和十二年四月) 於 名古屋醫大

余の考案せる小硬度計に就て

第三五回 日本神經科學會 (昭和十二年五月) 於 岡山醫大

限局性脊髓膜脊髓炎及脊髓膜脊髓神經根炎の外科的知見

第七七回 日本レントゲン學會 東京地方會 (昭和十二年) 於 東京醫師會館

限局性脊髓膜炎の「ミエログラム」

第六二回 日本泌尿器科學會集談會 (昭和十二年十一月) 於 慶應病院平面講堂

「コルドトミー」を行へる一症例 (劇痛を有する攝護腺癌) に就て

野崎寬三

岩原助教

野崎寬三

小泉次郎

島田信勝

左奈田幸夫

前田教授

加納保之

伊藤原

小島茂章

久崎章

久崎章

岩原助教

大内正夫

岩原助教

岩原助教

豫告

昭和十三年四月

於日本醫學會總會分科會醫料器械學會

特別講演

前田和二郎

整形外科用裝具 (Orthopedische Apparate) に就て

附記

整形外科の現況より見たる整形外科用裝具の一般に就て講演せらるゝものなるが目下の事變に依る戰傷患者の治療上重要な意義があるものと思ふ。

外科集談會 (於日本醫師會館)

第三五五・三五六回 出演者なし。

第三五七回 (昭和十二年二月十九日)

一種の溶血性連鎖狀球菌のみを證明せる

急性蟲樣突起炎の一例

赤倉一郎

第三五八回より第三六四回まで出演者なし。

整形外科集談會

第九〇回 (昭和十一年二月一七日) 於東京醫師會館

外傷性脊髓神經根剝脫の一例

(上膊神經叢麻痺の二原因)

岩原助教

第九一回 (昭和十二年二月二二日) 於陸軍々醫學校

力士に見たる内側「メニスクス」損傷に依る彈撥膝治驗

小柴清定

第九二回 (同年三月二二日) 於慈惠會醫科大學

腦膿瘍を伴へる頭蓋骨髓炎の一手術治驗例 左奈田幸夫

第九三回 (同年六月二八日) 於日本赤十字社病院

轉位性頭蓋骨腫瘍 (「プラスチック」及「ビ

「ヒペルネフローム」) の手術例 西平賀健

第九四回 (同年九月二七日) 於東京醫師會館

先天性橈尺骨癒合症に就て 西新助

大腿骨外側頸部骨折 (特に轉子間及轉子部貫通骨折) 加納保之

の非觀血的治療經驗 左奈田幸夫

腕掌部及び足蹠部に於ける淋毒性關節炎の「線 解剖學的觀察

第九五回 (同年一〇月二五日) 於橫濱十全病院

前頭骨々微毒の二例 田邊重信

第九六回 (同年十一月二九日) 於三樂病院

後頭下穿刺異例の二、三 大内正夫

抄 讀 會

第一二一回 (五月廿七日) 於平面講堂

一、良性骨性大細胞腫瘍の區分に就て 石川 君

二、胃潰瘍發生に關する概念とそれに依る治療指針 關 口 君

三、潰瘍の穿孔に於ける腹腔内に於ける遊離瓦斯の「レントゲンの證明」の診斷的價値に就て 辻 岡 君

四、局所腰椎麻醉法に依る手術後の血液凝固の態度 鵜 澤 君

五、特發性脱疽に對する「パツチン」の持續的靜注 齋 藤 君

第一二二回 (六月十一日) 於平面講堂

一、腸瘻の際の血液化學的成分の變化に就て 城 君

二、脾白窩蓋成形術の批判 大 沼 君

三、「メニステクス」損傷に就て 小 柴 君

四、レール氏による創傷の治療經驗 中 山 君

五、化膿性及膽汁性腹膜炎の腹腔内容が血壓に及ぼす影響 赤 倉 君

六、術後皮膚溫の消長 門 橋 君

第一二三回 (六月卅日) 於階段講堂

一、直腸瘻の療法とし二期手法

二、抗腹膜炎血清の經驗

三、急性脾臟疾患の經驗

四、「アレギー」性疾患の臨床(總論)

第一二四回 (十月十八日) 於階段講堂

一、a 慢性蟲様突起炎と器械的蟲様突起疾患

b 蟲様突起より發生せる顯著なる腹膜假性粘液腫の一例

二、腹膜炎を伴つた急性蟲様突起炎

三、a 強熱「エーテル」蒸氣による麻醉經驗に就て

b 「エビパン」及「オイナルコン」麻醉經驗に就て

四、胃潰瘍に於ける「ヱイタミン」C不足の作用に關する實驗的檢索

外科教室より出たる文献

一、家兎頸動脈橋成形手術及び保存的血壓測定法

二、開腹術に於ける血壓の變化 (續報)

三、陰極線「オッシュログラフ」を以て測定せる人間末梢神經の興奮傳導速度

(變應醫學、第十六卷第十一號)

瀬尾宥三

蟲様突起炎患者病竈より分離せる一種の

溶血性連鎖球菌に就て

(細菌學雜誌、第四九六號)

堀道郎
赤倉一久
中山一久
尾村偉久

東京地方に於て得たる人型溶血性連鎖球菌の型別試験

第一報 A 郡菌の檢出及び型別法並に特異相と

非特異相に就て

第二報 溶連菌の型別成績並に感染防禦試験の

型特異性に就て

(東京醫事新誌、第三〇二〇・三〇三四)

小平正
(北研・兒王威他二名協調)

The Serological Grouping and Typing of

the Hemolytic Streptococci Isolated in Tokyo

(The Kitasato Arch. o. Exper. Med. Vol. XVI. No. 3)

同

急性蟲様突起炎

(日本外科學會雜誌、第三八回第七號)

茂木教授
木村教授
町田教授
鎌田教授

整形外科教室より出たる文献

淋毒性關節炎

(臨牀日本、第五卷第一册第三九號)

頭蓋骨折(醫學輯覽、第一四一號)

顎關節疾患に就て

(診斷と治療、第二四卷第六號)

外科的脊髓疾患の早期診斷

(醫學輯覽、特別號「早期診斷」)

新鮮なる小兒上膊骨髁上骨折の垂直牽引療法

(前田氏法)に就て

日本整形外科學會雜誌、第一一卷第六號

骨及關節疾患の早期診斷

(醫學輯覽、特別號「早期診斷」)

限局性脊髓膜炎の「ミエログラム」

(臨牀雜誌「外科」第一卷第二號)

脊椎腫瘍(醫學輯覽、第一四三號)

脊髓腫瘍と限局性脊髓膜炎との鑑別

(診斷と治療、第二四卷第三號)

脊椎腫瘍の診斷

(東西醫學、昭和十二年二月)

前田教授

同

同

同

同

同

同

前田教授

野崎寛三

岩原助教授

同

同

同

同

同

同

同

同

脊髓の手術的侵襲に必要な脊髓横断面に於ける計測に就て

(日本整形外科学會雜誌、第一二卷第三號) 畠中卓助

腦膿瘍を伴へる頭蓋骨々髓炎の一手術治驗例

(臨牀雜誌「外科」第一卷第八號) 畠中卓助
左奈田幸夫

「線像に於ける脊椎々弓根像と脊髓々節高位との

局所解剖學的關係に就て

(日本整形外科学會雜誌、第一二卷第一號) 高木宗吉

微毒性關節炎に就て

(内外治療、第一〇年第一〇號) 島田信勝

所謂慢性關節炎の診斷に際して

(大阪醫事新誌、第八卷第一號) 同

胸椎腫瘍(脊索腫)の一例

(日本整形外科学會雜誌、第一二卷第四號) 大内正夫

淋毒性關節炎の血清及び關節液に於ける

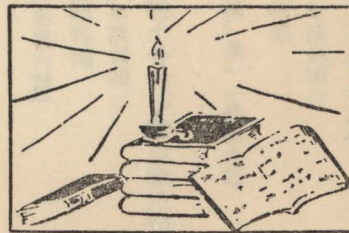
淋菌補體結合反應に就て

(日本整形外科学會雜誌、第一二卷第七號) 加納保之

力士に見たる内側「メニスクス」損傷に因る

彈撥膝手術治驗

(日本整形外科学會雜誌、第一二卷第四號) 小柴清定



日本外科學會宿題報告概況

小 平

無爲に過ぎされた月日は之れを顧る時は浪費の自責によつて、寧ろ長かりし如く感ぜられる。反之追はるゝが如く過ぎ去つた研鑽の一箇年は何と短かつたことであるか、昨春、茂木先生が吾教室に宿題報告を齎らされて以來、先生の御精進振りは以前にも増して物凄く、蔭ながらも御健康の程を御案じ申し上げたくらいであつた。而も本年度に這入つてからは徹夜に次ぐ徹夜と拜せられ、之れも各自分擔の仕事が兎角遅れ勝ちであつた爲で、誠に申譯けなく感じた次第である。それでも醫局員一同は各々仕事の量の多寡こそあれ、何れ劣らぬ奮迅振りで、除夜の鐘に追はれ、屠蘇の盃を他所に見てカルテを繰り、數字を拾ひ、試験管を振り、動物小舎を歩き廻つた。而も尙茂木先生の御精勵に對して愧づる思ひ無かりし者は幾人あらうか、斯くして先生の御手許に積まれたる膨大なる調書は幾度か書き更められた事であらう。數回の豫演を経て漸く三時間の講演に纏められるまでの先生の御苦勞は吾人の想像も及ばぬ業でありしことゝ拜察せられた。

四月三日午後三時、東大法學部講堂は其日他學會の聽衆をも一堂に浚ひ來つて遂に超滿員となつて

仕舞つた。悠容迫らざる演壇上の吾が茂木先生の御講演の姿は、今も尙吾が眼前に髣髴として居る。演壇兩側に建てられた一對の捲取式の圖表の滑らかな進轉又よく之れに着いて、實に三時間、聽講者は肅として聽き吞まれて仕舞つた。斯る陳腐なる演題をば今日再び取り上げて之れを檢討せねばならない所以を力強く論じ終られた時には滿堂の拍手は暫しその鳴りを鎮めなかつた。茂木、木村、町田、鎌田四先生に對して會長高橋信美先生の衷心よりの鄭重なる謝辭のあつた後、木村教授の蟲様突起標本出術並に糞瘻閉塞法及び久崎式硬度計の十六ミリ實寫映畫があつて、第三十八回日本外科學會總會は鹽田教授の音頭とる萬歳に目出度く幕を閉ぢたのであつた。尙當日は希望者に對して木村教授式腸穿利用ガラスドレンを頒ち、又會場入口に當日手術摘出せる新鮮なる蟲様突起標本十數本や各種珍奇なる動物の盲腸等を陳列したのは會衆に満足を與へたことであつた。

九州學會紀行

野崎

第十二回日本整形外科學會は珍しくも南は九州、森の都熊本で開催せらるゝ事となつた。前田教授を始め町田、土方、島田の諸氏と私は五月十四日の櫻で東京を出發した。長いと思はれた東海道の旅も同行大勢の賑で翌十五日の夕刻には熊本に安着した。途中福岡で岩原、大内兩氏を迎へたが兩氏は岡山で開催せられた日本精神神經學會に出演し堂々たる貫録を示し意氣將に擧るものがあつた。熊本では研屋旅館で慶大陣を張つたのであるが、間もなく木村教授も見えられ、又九大外科見學に能率をあげて來られた、渡邊、瀬尾、伊藤、小泉、郷里を廻つて來られた百溪の諸氏が加はり俄然十三名の大軍となつた。

そこへ同窓會員竹下氏よりビールが届けられ一同氣勢を擧げた。當夜は評議員會が熊本隨一の名料亭會津花壇で東教授司會の下に開催せられた。木村、前田兩教授を始め町田、岩原兩助教授と私が出席した。此處の庭園には芭蕉の大野林があり、その間を清流が走り美しき奇觀たると共に南國情緒に溢れて居た。

熊本の氣候は東京より凡そ一ヶ月位先立つ六月中旬頃の氣候であると思はれた。前田教授には以前熊本に居られた關係上今回の御旅行は御感慨もさぞかしと察せられた。

扱て學會第一日には同窓會員成松清敏氏の興味ある「腰椎單獨横突起骨折」なる御演説があり、吾々は同窓會のため大いに心強く嬉しく拜聴した。第二日は醫局員の出演日で脊髄外科に或は淋毒性關節炎に關した題目で前田教授を始め、岩原、島田、伊藤、小泉、大内氏及び私等が出演した。何れも貴重且興味ある研究として歓迎せられ殊に神中、東、石山、小澤教授等の好評判を受けた事は吾々の誇である。殊に齋藤君の撮影された瘰癧斜頸の手術映畫は絶賛を博し、岩原助教授は演説に、追加に討論に大いに活躍された。又「クロナキシー」問題に關した討論は大阪毎日に慶大、阪大の大論争として掲載されたが、私は慶應のため肩幅の廣い思ひをした。

第一日の夜熊本某料亭に於て一大懇親會を催した。木村、前田兩教授を始めとし竹下氏の御骨折で遠征軍全員集合仲々の盛會であつた。兩教授並に竹下氏より特に多額の御寄附を頂き全員熊本情緒を満喫し得たことを特記して御禮の御挨拶としたい。

第二日學會終了の夜一同は散會した。或は島原、雲仙に或は阿蘇、別府へ思ひ／＼の「コース」で三三五五と別れた。一同竹下氏の御好意と御見送りを感謝しつゝ。さぞかし歸りの汽車中ではまだ生新しい思出に微笑を洩らす方があつたことであらう。

九州帝大外科觀想記

瀬尾

去る五月十五、六日熊本に於ける整形外科學會行きに幸にも參加を許された。此の機に於て有名な九大外科クリニックを見度もとの計畫して一行に先立つ事一日、五月十二日渡邊(治)君と共に特急櫻にて初夏の東京をあとにした。途中退屈する頃食堂にて衛生の草間、原島兩先生に會ひビールを御馳走になりながら名古屋で下車されるまで雑談に花を咲かせ大變に面白かつた。京都を過ぎる頃最上段の寢臺に潜り込んで翌朝下關に着くまで寢て仕舞つた。扱、博多に午前十時半着、直ちに車を飛ばして九大醫學部に行く。門を這入れれば向つて右側に整形、赤岩、後藤外科と一つづゝ獨立せる外科クリニックの建物がすらりと並ぶ。先づ整形外科へ、先發の岩原、大内兩君を訪ね。兼ねての約束の様紹介の勞をとつて貰つた。残念な事には此處の手術は總て午前中である。吾等の到着の時は既に手術は總て終つて居つた。それでも兎に角整形外科から手術場、病室を見物する、手術場は神中教授の所謂無言手術にふさわしき青色に落ち着いた總てよく見透しの効くやうに設計せられたものである。整形外科は何しろ明後日の熊本に於ける學會を控えてゐることであるから、此處で色々な手術の見學は出來ぬとあきらめた。そこで赤岩、後藤兩外科を訪ねて兩教授にも面會見學の許可を得又色々

の別冊を頂戴した。午後は赤岩教授の臨床講義を拜聴する。材料は「Cysten niere」と大々な「Struma cysticum」で、たつぷり四時間の長講、赤岩教授の「エネルギッシュ」なのに驚いた。先づ患者の既往現症、等を細大洩らさず其の患者の主治醫が學生の前で「カルテ」を読み且つ種々な検査成績を見せる。それから學生に患者を診せ、教授の質問次いで講義となる順であつた。講義終つて同教室の八田講師の案内で手術場、病室を見學する。三宅教授時代の建物故少し古いが三階鐵筋凝苦土建である。屋上に迄昇つて見る、醫局の野球、庭球は總て硬球、本ボールと仲々がっちりしてゐる。醫局リーグ戦では何時も後藤外科と決勝戦になるとか元氣な話を聞かされた。實驗室は病理、細菌、生理、化學と言つた工合に各一室づゝ分れ、三―四人の席があるらしかつた。其處で臨床の材料や動物を使つて仕事が行はれて居る。膽囊に關する實驗の器械が丁度働いて居つた。此處工合で一日が暮れた。其夜は博多の經驗家岩原さん大内君の御案内で夕方到着の伊藤原、小泉兩君と名物水たきを喰べ、博多人形を見て大いに氣分を出したのは勿論である。宿泊は醫學部構内に惠愛團と云ふ丁度三四會みたいなものがあり、此の會館が立派なもので此處で教授の紹介があれば他の者でも泊めて呉れる、見學者には實によい所であつた。之れも岩原君の紹介で安心して再度泊る事を得た。

翌十四日岩原君一行は熊本へ、吾等は午前八時赤岩外科の醫局を訪ねて手術見學をする。總て教授以下全員手洗ひである、中には汗止めの鉢巻をして居る人もある。最初に昨日の臨講の大々な「Struma

cysticum」の手術、之れが濟んで胃二つ、「Hintere Gastroentero-anastomose nach Hacker」と、一つは「Magen-resektion, antecolica oralis inf. 即ち Hacker 法を見た。他に Probe Laparotomie」と筋炎位で、手術はテキパキと進んだ、一々細く書けぬから後に後藤外科と纏めて氣の付いたことを誌すことにするこんな工合で午前中に手術が濟み吾々は先生に別れを告げて學會地熊本へ向つた。初めの旅行豫定では、九大見學、熊本、それから阿蘇を見、雲仙か別府を見物と思つて居たが、九大見學で所謂他山の石、大いに參考になる事を感じ、急に豫定を變更して、熊本で學會と阿蘇見物を濟ませると直ちに再び九大へ戻ることに決めて、渡邊君と共に十六日の夜再び大學の惠愛團會館に舞ひ戻つた。

十七日朝再び早く赤岩外科を訪れた。其の日は十二指腸潰瘍の胃切除及び十二指腸粘膜炎除去術及び胃幽門癌狭窄の胃腸吻合 Antecolica anterior 腎の手術を見學する。アツペが一つあつたのだが吾々が胃の方を見てゐる中に何時の間にか其の方が濟んで居つた。午後は後藤外科を訪れて明日の手術見學を申越した。月水金が赤岩、火木土が後藤外科の手術日となつてゐるのだ。吾々は遂に後藤外科の手術は一日しか見られぬことになつたわけだ。後藤先生自ら吾々を案内して下され、先づポリクリ室を見せて頂いた。先生御自慢のもので壁が全部X線寫眞をはめ込めるやうになつて居り、此處に時々種々參考になる「ブラツテ」を入れ換えて學生のデモに使ふ由、次に研究室を見る。此處は研究テーマが部屋で別れて居る。胃とか大綱とか云ふやうに、そして附屬動物室も仲々よく出来てゐるし、動物

手術場に無影燈があるには驚いた。後藤外科は木造二階建てで赤岩外科に比べると落ち着いた、地味な作りだった。先生のお部屋には「フランスの飛行士ジャビー」の治療記念の寫眞があり、仲々先生御得意のものであった。又「メヨール」の「ジャツド」の寫眞もあつた。扱、翌十八日は雲仙見物の歸途福岡に下車した百溪君と三人で後藤外科を訪れた、Morbus Banti の脾摘出、胃潰瘍の胃切除に於て、所謂 Balfor の原法を見て見學を終つた。後藤外科の醫局長と思ふが永富博士にいろいろ醫局の説明やら同氏の別冊等を頂戴したりして此處に見學を終つた。後藤教授は三週間位滞在せよ、兩外科にて一通りの物は充分に見得らると云はれたが遺憾ながら又の日を約して別れた。尙此の間、九大得意の膽囊外科の一例も無かつたこと、學會の爲め、神中教授の手術を一つも見られなかつたことは残念であつた。然し兎にも角にも學會行を利用しての見學では相當能率的であつたことは種々なる點で便宜を與へられた方々に深謝する次第である。

さて以上の赤岩、後藤兩外科見學で氣のついた又面白いと思つた事を思ひ出すまゝに綜括的に書いて見る。

先づ手術場のやり方は兩外科共に手術場係りの醫局員が決定してゐる(勿論何ヶ月かの交替であらう)それが手術の前日手術豫定表を作り教授の指示を待つ、教授は術式は勿論、局麻、全麻と麻酔法を決め、且つ術者を決定する。係りは其準備を手術場看護婦に命令する。そして手術場の隣室で患者の手

術野の第一回消毒を手術場係りがやつて、手術室に入れる、其他吸引器、電燈の配置、全麻酔、患者の術中の脈等は總て醫員即ち手術場係りがやり、看護婦は繻帶巻きだけである。

手の消毒は赤岩外科では普通の方法で、そして助手も總てゴム手袋をはめる。後藤外科は特別な砂で洗ふ、勿論總てゴム手袋をはめる。患者の消毒は赤岩外科は、首、腋、股等にはピクリン酸、他は沃度丁幾、後藤外科は「フオルマリン、アルコール」を用ひて居つた。

教授手術には助教授又は講師が第一助手を必づやり、患者主治醫は第二助手である。そして赤岩外科では、例へば胃手術の時は、開腹まで局所麻酔から全部助教授又は講師がライテンしつゝ主治醫が行ひ、開けて癒着其他の状態を調べて待つと教授は此處で始めて此の手術に手を觸れ出す。後藤教授は始めから手術をやられた。結紮は主要部分は皆手術者が結ぶ。手術中兩教授共相當に叱られる。その爲めか助手が却つて上手く行かない、助手振りは吾が教室の諸君の方が大變に氣がきく。

開腹切開線は相當大きい、之れは「アブドミナルトリアス」を検する爲めだそうだ。脾摘出では正中線切開後左側横切開をやる。開創器は必ず兩外科共に同じものを使用して居つた。門のやうな所謂ゴゼット式の變形らしかつた。

赤岩教授は胃遊離法は木村先生のやうに一々結紮をやりながら進む。主に「クリブラン」の結紮糸輸送器を使用せられた。後藤教授は片端から「コツヘル」では喜んで切離する、特に彎曲「コツヘル」

(高木式といふのであらう)を使用せられるので數多かけても「おいらん」の髪飾しの様に突立たず工合良い、そして切除後に一々結紮に移る。茂木先生と同じやうである。胃の切除術式は赤岩外科は Hacker、後藤外科は Balfor であつた。或はもつと色々やられるかも知れぬが、吾々の見たのはそんな工合だつた。吻合は赤岩教授は主に癌性の者には Gastroenterostomia antecolica anterior 潰瘍性のもつには Hacker の Hinter-anastomose がよいと説明して下さる、又 antecolica anterior である Braum でもきちんと空腸の長さを尺で測つて吻合を行ふて居られた。後藤教授は胃切除と共に大綱も切除せられた。癌の時は勿論であるが大綱研究のため潰瘍の時も一緒に切除すると言はれた。兩教授共にバイヤの鉗子を使用して居られ切除胃には赤いガーゼを蔽つてすつかり包んで仕舞ふやうな事をして居た。即ち「メルクマール」となり又鉗子の萬一の脱落に具へるやう確實に／＼と行く。吻合の時は兩教授共に手縫ひである、永富式曲針を持つてする、曲針の手縫ひは誠にやり難くそうに見えた、慣れなばよいのかも知れぬ。

「ベッツ」等の鉗子はあまり使用せぬやうだ。後藤外科、友田助教授は丁度歐米へ行つて留守であつた。それから粘膜炎縫合をした手を餘り消毒しないで後藤教授は「レムベルト」を始められたが相手が胃潰瘍であつた爲めかも知れない。胃潰瘍で思ひ出したが後藤外科の胃の「カルテ」には一目胃液状態が判るやうに「グラフ」が丁度體溫表のやうにしてある。胃曲線も大抵書いて貼り付けてあつた。

次に兩教授共吸引器を使つて胃や腸内容を吸つて取る。後藤教授は潰瘍の胃後壁と横行結腸々間膜癒着を胃後壁を腸間膜側へのこして切除、直ちに其の穴から胃内容を先づ吸引器によつて掃除して胃の切除をやり、後で腸間膜の胃粘膜を剔出して、閉腹時に横行結腸の血行障得有無を調べ、若しあれば結腸の切除吻合をやると言はれたが、吾々の時は幸ひ、血行障得有無其のまゝ閉腹した。

兩教授は一々手術に説明付きである、無言手術ではなく見てゐる者には實によく解る、勿論「マスコ」はかけて居られる、最後に皮膚縫合は兩外科共に「シユロ」の纖維を用ひる。之れは力を入れると切れるから丁度皮膚に對して締め過ぎる事が無くてよいそうである。

手術所見記載は赤岩教授は自ら、後藤教授は手術場係りが口述を速記する。

終りに兩教室の研究の工合を書いて見る。醫局員は赤岩外科が約八〇人、後藤外科が約七〇人位丁度兩教授の名前に拾をつけた位だつたと思つた。臨床三年位で研究者は一時患者から離れて各教授のテーマを頂戴して教室の研究室で仕事をやらされる、其の仕事の濟み次第再び患者を持ち、ムンドを待ち、又は餘裕のある人は一層研究を續けて行くと云ふやり方である。能率的であると思ふ。

それから後藤外科に於ける醫局員の患者受持法であるが面白いと思つたことは、所謂「ネーベン」と云ふものがなく、患者を輕症（例之、膿瘍、ヘルニア、頭腹部以外の外傷等）中重症（例之、蟲突、膿胸等）。重症（例之、胃癌、腹膜炎、腦等）の三階級に區分して、新入局者は輕症を、入局半年

後は中重症を、入局一年位は重症を持ち、それ／＼ライターの助教授、講師が監督して主任教授と共に責任を持つと云ふ工合である。そして受持表を醫局の黒板に各級に屬する醫員名を順に圓周に書いて中心に矢を付け、今日は誰が受持番、明日は誰の番になるであらうと云ふ事が、その矢が順繰りに廻はされて行くのだから、整然として居て、實に判りがよい。自分の受持番が來る事が一見して判つてゐるので非常に便宜であらうと思つた。

以上の外に撰擇組と言ふのがあつて、之れは主に仕事の濟んだオーベルアルトや特殊研究者が其の材料患者を受持つのらしい。こんな工合に色々思ひついた事を思ひ出したまゝ書いて見たが、勿論官立と私立では立場も違ふのであるが、取つて以て範と爲すべく、看て以て自信を付け得るもの多々あり、兎に角他人の「クリニック」を見るといふことは參考になることは大である。東京、その近邊にも各大學、各大病院あり、折に觸れ先生からの傳手を頂いて見學させて頂けば幸甚であると思ふ。他の科學殊に所謂軍事科學等は兎も角、醫療に機密はあるべき筈は無い、些か見學記と共に所感を述べて稿を終る。

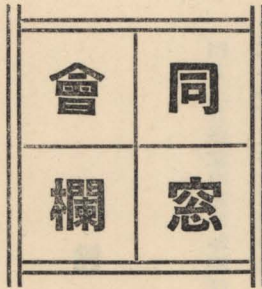
御 挨拶

邦國の非常時日支事變に際し各位には益々御健勝の段大慶に存じます。特に戦地に内地に救護事業に御活動の諸君には萬腔の敬意と感謝を捧げます。

儲而長女千鶴子の結婚に就き各位より御祝物やら（御辭退した筈なれども）御祝電、御祝辭等を賜はり恐縮に存じます、實はかね／＼御厚配を蒙つて居る同窓會々員の各位は是非御招待申上ぐる筈でありましたが、時節柄諸式を簡略にするやうにとの申合せなので誠に失禮とは存じました。が御招待を差控えるの止むなきに至りましたあしからず御了承を願います。なほ心ばかりの金を陸海軍に献金いたしました。して皇軍に敬意を表しました。

右一々御挨拶申上べきところ略儀ながら刀林紙上を借りて各位に御禮を申述べます。

茂 木 藏 之 助 拜



お詫びの言葉

編輯員

四月三日満堂の拍手を浴びて茂木先生は宿題報告の演壇を降られた、それがつい先頃の様に思はれる今、吾々は國を擧げての大事變の眞只中に居る。出征同窓諸兄の名が巻紙に書かれて醫局の時計の脇に貼られてゐるのが段々に延びて行く。追々寒氣も加つて來るのに出征諸兄は如何お過してあるうか、戦地に近くお暮しの諸兄はどんなにお忙しいことであるうか？ 之等の皆様からは寸暇を裂いて誌された生々しい、そして吾々にまつて實に興味深いお頼りが毎日の様に醫局に配達されて居ります。

今回の刀林には専ら之れを掲載させて戴く心算で張り切つて居たのですが、諸般の事情からも少しの間之れを遠慮せねばならなくなりました。貴重な御記録に筆を入れたり削除したりする事は到底出来る事ではありませぬそれ故之れは只今大切に保管して置いて、まだこれから戴くであらう數多の御頼りと共に、やがて事變落着の曉に臨時發行をしては如何かと思つて居ります。一部の方よりは特に刀林用として戴いた原稿もあるのですが、右様の次第ですから何卒惡からず御了承願ひ度く、茲に編輯員一同よりお詫び申す次第で御座居ます。

録田先生 ブラジルに向けて鹿島立たる



龍田丸上にてテープを握られる先生（横濱）



お見送りの諸先生と東京驛にて

鎌田先生御渡伯を祝ふ

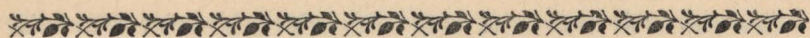
編輯員

在ブラジル同胞二十萬人に對して畏き聖慮から下賜された御内帑金五萬圓に、國庫補助及び寄附等計百萬圓の巨費を投じてブラジルのサンパウロ市に建設中の「日本病院」が明春竣工するので同病院長として濟生會病院外科部長鎌田竹二郎先生が四月二十八日午後三時横濱出帆の郵船龍田丸で出發せられてから早や半歳を経た。其後先生には御健康にて同病院完成の爲めに日夜御多忙の御事と拜察する。先生が御渡伯後間も無く、サンパウロ大學より名譽教授の稱號を受けられた事は誠に慶賀の至りと言ふべく、吾々同窓會員も限り無き誇りを感じて己まぬ次第である。今後先生の彌々御壯健と御奮闘を遙か半球の此方より御祈り申し上げ。

御出發當日の朝日新聞に先生の御寫眞と共に「南米に建設進む日本病院の偉容、初代の院長けふ出帆」と題して四段抜きの大記事が掲げられてあるが、それによると「日本病院は昨年六月着工、材料及び醫療器は總て國産、建坪三千坪、二百五十名を收容し得る鐵筋五階建の近代的建築、我國が海外に經營する最初の大規模な病院で、同國にあるイタリー、ドイツ、フランス等の病院に比して遜色の

ない優秀な「國産病院」を實現する筈で開院迄には更に各科専門醫約十名、看護婦主任六名を送るこ
とになつてゐる」とあり、更に先生の抱負として、「日本病院はリオデジャネイロ、サンパウロ兩市の
醫科大學に在學する第二世の臨床的利用にも充て、將來は第二世を我國の大學に入學させた上彼等自
身で經營する病院にしたいと考へてゐます。なほ前伯國外相が敷地を提供建設されたサンパウロ市郊
外の結核療養所を分院として風土病の根絶にも努力したい考へです」と語られてある。

先生御出發に先立つて三月二十五日附助教授に昇格せられ、次いで四月三日には宿題擔當の御一員
として外科學會總會の壇に立たれる等御多忙の日が續いた。四月二十日には病院内職員食堂に於て醫
局内送別の小宴が張られた。席上前田教授は熱烈なる送別の辭を述べられて「斯る國家的大事業に萬
障を排して勇躍壯途に就かれる君を吾が同窓會員中に有してゐる事は吾々の最大の誇りである」と
せられた。獨り學術上の一進展のみならず、國際的外交的手腕を必要とする檜舞臺に於て、先生は正
しく滴所適材たる事萬人の信する所であり、一慶應醫學の誇りに止らず、吾國家を擧げて慶賀すべき
事である。されば先生の壯途に上られんとするや、東京驛頭には、北島醫學部長、宮島、阿部諸教授
を始め稀に見る盛大なるお見送りであつた。東京驛及横濱阜頭解纜間際の龍田丸上の先生の記念寫眞
は大庭先生の御厚意により得られたもので、同先生に厚く御禮申し上げます。



日本讃歌

(一)

大君のしろしめす國

大日本

富士の高嶺

磯の松風

此の國に生れし幸を

いざや 歌はん

(二)

東洋の平和の基

大日本

櫻花の匂ひ

菊の白露

此の國に生れし幸を

いざや 稱へん

(三)

善隣と共に榮ゆる

大日本

稻の垂穂

桑の綠葉

此の國に生れし幸に

いざや 應へん

(昭十二・二十)

茂木先生の御慶事に列するを得て

治生

菊の灯のかなたに恩師笑み給ふ

今日を待つ一人でありぬ菊に酔ふ

治生

出征同窓會員皆様へ心よりの感謝を捧げて

治 生

(一) 皆様どうも此度は

御苦勞様でございます

こちらは菊の秋ですが

御地の季候はどうですか

(四) 此の日此の秋報國の

メスを振つて一線に

活躍せられる皆様は

我窓同會の誇です

(二) 事變は遂に我方の

期待に背き擴大し

今や暴戻支那軍を

撃破の一途となりました

(五) 茂木先生薫陶の

慶應外科の眞隨は

皆様の手で赫々と

御國の爲に輝るのです

(三) 日清日露の兩役に

劣らぬ御國の大事です

男子は正に身を捨て、

難に赴く可き日です

(六) これを思へば私は

御禮の言葉を知りません

只ひたすらに皆様の

御健闘をば祈ります

興城便り

神山敏雄

御無沙汰致しております、殘暑の折柄醫局御一同様には益々御健勝の御事と御喜び申上げ候。降つて小生も無事、先月下旬より臨時陸軍病院となり専ら北支の戰傷者の診療に従事致し居り候間乍他事御放神被下度候、病院、ホテルを合して目下百名位の患者を收容致し居り候。

東京でも昨今は戰時氣分濃厚の御様子、當地は案外呑氣に候、然し當奉山線は本月に入つてから旅客列車は一日一回より通過せず、それが四時間、五時間と延着する有様にて、何處へも出られぬのが閉口に御座候。

茂木先生も事變の爲、御渡滿御中止の由承りがつかり致し候。
本日より日本學術協會總會開催され居れども出席致されず候。

昨日のラヂオにて東京は八年振りの暑さとか聞き及び候皆様の御自愛を祈り奉り候、滿洲は漸く秋風立ち初め海水浴も終了致し候。

何れ後便にて申上ぐべく、先は亂筆にて 御無沙汰御詫旁々近況御報告まで

八月廿二日朝

脾 肉 の 嘆

豊橋にて 小 田 満

醫局諸兄も數多應召せられ候由承り御多忙の事と推察致居候、小生未だ武運拙く出征致さざるも千五百名の學生に軍醫は小生一人のみ大童にて働き居り候も父五十三歳の老軍醫大尉應召し、近日出征致す事と相成り、先き越され残念に思ひ居候も父子二代國家に御奉公出來得る一家の名譽誇りに存居候、此の上は粉骨碎身御務め專一に皇恩の萬分の一にも御報ひ奉らんと期し居候に付き御安心下され度く、先は簡單ながら右近況御報告申上候

未筆ながら茂木先生始め醫局諸兄の御自愛を深く御祈り申し上ぐる次第に御座候 敬具

銃後戦線に出て

吉岡 勝衛

九月十日の晝頃突然醫局長から福島縣の木村守江先輩が應召されたゝめ、その留守番に一時でもよい故至急行つてくれないか、との話があり、何時からと問へば、明日中に向ふに着いて貰ひたいと云ふ。なんだかこつちにも召集令狀でも下つた様なあわたゞしさだ。非常時の醫局だ。取り合えず應諾して翌十一日折からの二十日の颱風をついて上野出發、午後八時、福島縣四ツ倉なる木村先輩の醫院に到着、早速醫局及び同窓會を代表して壯行の挨拶をのべた。

翌十二日木村先輩は萬歳の歡呼に送られて勇躍會津若松に向つて出征!! いや／＼留守軍の第一日は開始された。引繼ぎの暇もないこと故院内にどんなものがあるか、どう云ふ藥を出してゐるのかさつぱり分らず、その上患者の言葉がはつきり分らない。まるで闇夜を手探りで歩いてゐる様な形だ。その中へ来る／＼!! 外科、内科、小兒科、耳鼻科、婦人科と雜然としてやつて来る。一日二十名から三十名。外科だけならこの位の數庇でもないが、内科、小兒科甚しきは産婦人科と來ると、その度毎に私に脇の下に冷汗がにちんでくる。醫局にゐる時に、患者がくさめ一つしても、それ内科、そ

れ小兒科と、依頼表ばかりあてにしてゐた天罰はたちどころに至つた。

夜中にたゞき起されて、往診して、苦しんでゐる患者にバントボンや、カンフル位さして、何が何やらさつぱり分らず歸つて來る時などつくづく銃後の守りも亦つらいものと思つた。醫局にゐて専門家でございと自分の甲羅にたてこもつて外のことは一切他人委かせの吾々は、斯う云ふところへ來て醫師としての自分を顧り見る時、その内容のいと貧弱なるに氣が付いた。

次にこの四ツ倉町と云ふところは海岸に面した静かな街で、夏は海水浴場として賑ふと云ふ松原あり、砂濱あり、氣候風土などさほどに悪いとは考へられぬのに、結核患者の多いことにひどく驚かされた。内科の患者、その大多數は肺結核!! 往診に行く、皆んな青い顔をして寝てゐる。内科の醫者と云ふものは、こうも治らない肺病患者ばかり診て歩くらのかと、いさゝか考へさせられる。

日本は肺病國だと云ふことだが、予はこゝに來て、その如實の様を見せられた。

留守を預つて二旬、幸ひにして大過はないが、今に誤診、珍療など續出することと思ふが、あまりぼろを出さない内に早く銃後の守りの責任を解除して貰ひたいと祈つてゐる。(十月一日)

星ヶ浦にて

加藤銀治郎

茂木先生はじめ醫局員御一同御壯健にて御研鑽の事と拜察、醫局を離れて既に五年半、常に御無沙汰のみ重ね申譯けない次第です。其の間醫局にも色々變つた事もあり、昨年の宿題報告、本年の事變出征等來連の同級生吉岡兄、小口兄等から承知致し感服、感謝の念に堪えぬ次第です。

目下大連は内地の三、四月頃の氣溫、暑くなく寒くなく、空氣の乾燥により毎日紺碧の空に入道雲が湧き、絶好のハイキング季節、北支事變の御膝下の様な氣分も薄く、非常時氣分濃厚な内地から見て誠に奇異の念を抱く程と思ひますが、天氣晴朗なれども波高しとでも申しますか、或る程度の緊張感は免れません。小生等もずつと足止めを喰つて外出する時は一々其の出先きを明瞭にして置かなければならない。何時召集を受けるかもわからない。平靜の様な、落ちつかぬ様な氣持で毎日を通して居ます。滿洲外科學會に相當する外科集談會は本年七月旅順で開催される筈でしたが事局の爲め無期延期となり、色々の研究發表を見る事もなく淋しく終りました。自分の勤務して居ます保養院も明年度から滿洲各地に同様のサナトリウムが建設されるので其の準備に忙しく、且目下滿洲唯一の結核治療所である爲め、外來患者は僅かですが入院患者多く院内の仕事も多忙です。色々轉勤者もあつて病院では一番古參となり雜務のみ多く困つて居ますが相變らず元氣にやつて居りますから御安心下さい。簡單ながら近況御報告申上ます。(十月二十四日)

土肥便り

伊豆土肥・慶應病院 相見 三郎

茂木先生始め諸先生並に醫局諸先生には彌御清穆の段大慶に奉存候。時局は益々深酷と相成り出征諸兄踵をつぐ様子にて、吾々銃後の者は只々感激に堪えず、只管諸兄の武運長久を祈るのみに有之候。外科學會雜誌を受取り茂木先生の宿題報告を拜見仕り、いつも乍らの絶倫なる御精力を三嘆仕ると同時に先生の御健康を祈る事益々切に有之候。刀林原稿の御請求を忝ふし何か御寄稿申上げ度く日々心懸け居り候へども、諸兄の御多忙中の御盡力に對し何とも申譯なき次第乍ら遂に締切日と相成り汗顔の至に有之候。小生の土肥生活も滿二年と相成り、御心配煩はし候小生健康も全く恢復、頗る頑健に消光罷在候。當地は勉強は兎に角、遊ぶには事缺かざる處に有之、これで達者にならざればお話しにならず候。然し掌を返すが如しとは斯る事をこそ申す可きか、一變せる場面に軍國情緒横溢、此の僻村にも「天に代りて」の叫びを絶たず、流石に魚釣り等も遠慮され、専ら質實のハイキングに田舎生活を楽しみ居り候。俳句も類を以て相集り、自然を友とするの境地には至らざるも駄句を弄し居り候。本職の方も大した過もなく、恩師の御蔭には少くとも西伊豆には小生に肩比する外科醫無之、小生の弱心臟を以てしてもさほどひげを取る事無之候。病院は院長土屋氏群馬縣中島飛行機に赴任、婦人科兩宮氏歸局の爲め開院以來の大移動あり、小生も何かと多端の爲め御無沙汰申し居りし次第に御座候乍未筆、出征同窓會員諸氏の神明の加護を祈り上げ候。(十一月四日)

高橋福三郎君の死を悼む

小 密 茶 庵

七月一日の晝頃であつた。

高橋福三郎君の告別式のある事を誰れか知らして來た。死亡通知が來たわけではなかつた。醫局を止してから三年、滅多に顔を見せなかつたが淺草で病院を經營してゐる伯父さんのところで元氣に働らいてゐる事と思つてゐたのに、突如として訃報が傳はつた。我々には何だか嘘の様な氣がしてならなかつた。

告別式に集まつた我々同窓生は皆一樣に哀惜の情と何だかみぢめさの感が一ぱいであつた。福さんは四國の伊豫で生れた。田舎の小學校を了へるとはるゝ笈を負ふて東京へやつて來た、そして伯父さんの家から獨協、慶應と通つた、獨協ではすつと秀才で卒業した。

福三郎君の家庭の事は多く知らない、然し家庭的に餘り恵ぐまれてゐなかつたらしい。何だか淋しい性格のところもあつた様に思はれたが、文藝を解し椿の花の如き情熱をもつてゐた。その一面又氣の弱い惡氣のないところは人から愛された。

醫局に居つた時代はよく酒をのんだ、そして飲めば愉快に語り且つ歌つたその時が福さんにとつて一ばん楽しい境地だつたかも知れない。

福さんが醫局に居つたのは六年位ひと思ふが一身上の事情から局を止めなくてはならなくなつた事は残念でならない。醫局を止した事は福さんにとりて精神的に非常な衝撃をうけた事は想像される。

人の道に通ひ出したのもその時分であつた。そして人の道の魅力に引きつけられて敬虔な祈りを捧げてゐた。

福さんの環境はむしろ不遇であつたらしい、そして伯父さんよりうけた恩とその義理をわきまへ、死ぬその日まで無言に伯父さんに服従して決して、それを誰れにも言はなかつた事はほんとに偉いと思ふ。

一年前に醫局の會に出て來た時は見違へる位ひ肥つて、とても元氣だつた、そしてしみじみと恩師への思慕の情と感謝の念を語つてゐたのが福さんに會つた最後であつた、聞けば奥さんは三月頃より田舎へかへりつくづく別離の悲哀をかこつてゐたとの事である。他に色々事情もあつた事と思ふが經濟的の不満も多分にあつたのではなかつたか。

丁度死の二十日前にある友達から少しくまとまつた金を手に入れた、その時は涙を流して喜こんだそうである、そして直ぐに奥さんを迎へに田舎へかけつけたとの事である。

故人の死後いろんな事情がはつきりして來るに従つて堪らなく悲しい。

東京にも親しき友はかなりあつた筈である、口惜しく思ふのはあへて近親者のみではないだらう。

あの人のいゝ福さんはもうゐない。

今在局當時の福さんを思ひ出してその瞑福を祈つてこの一文を靈前に捧げる。(十二年晩秋)

鑛山小説

濱名生

一、ペニス無しに子供の生れた話

これは一昨年の刀林に載せて戴いた陰莖痛の後日物語りです。話の主人公は現在四十一歳の鑿岩夫で、生れは常州筑波山の麓。患者は七歳の時友人とペニスを玩具にして居たが出血し出した。そこで早速友人と「醫者ごっこ」をやろうと云ふので裏の納屋から食鹽を持つて來てつけた。局部は随分痛んだが父母に叱られるのを懼れて隠して居る中に治くなつた。然し包皮は動かなくなつた。成年して鑛夫となり、二十歳の時健康なる女子と結婚、十兒をあげ、その中二兒は肺炎で死亡したが他は健全花柳病を否定し、ワ氏反應は陰性、至極眞面目な鑛夫さんである。此の患者が初診の昭和十年八月六日の約二ヶ月前から漸次に増大、排尿困難、コイツス不能を訴へ出した。醫局へ御願ひして、カンクロイドの診断を頂いた事は前に書いた通りです。そこで入院、アンブタチオン、淋巴腺のアウスロイムングで芽出度退院、十二月には創は完全に治癒して、ペニスの基部はエレクトチオンの際に臍ヘルニヤ様に約〇・五糎突出する程度でした。何回かのレ線治療の後に病院はお別れしたのですが、その翌年

五月頃にはフラウが大きくなつたと云ふ噂さです。

「姉は恥しくて外出しない」と電工夫である弟が相談に来るし、山の街頭でも色々噂さゝれて居たそうだが、患者自身は非常な自信を以て「誰が何と云つても己れの子だからかまはないじやないか」と云つて居ると云ふ事だつた。その秋には無事に第十一兒が生れ、丈夫に育つてゐる。人の噂さも七十五日、昨今では何も云ふ人は無い。數日前彼は病院に兄弟分を見舞に来たが「お陰様で命拾ひをしたし、力は以前より強くなつて、仕事も苦にならない。然し時々あれの夢を見て困りますよ」と苦笑して居つた。

二、野 兎 病

昨年の名古屋外科學會で聞いた時から「原因不明の淋巴腺炎はこれかな」と思ひました。山へ歸つて舊いカルテを調べると確かに兎と關係がありそうだ。その後數例に出會ひましたが、その中の一つを御紹介申し上げます。三十歳の坑夫。昭和十一年十一月十七日初診。九日に野兎の後肢を自ら料理して食す。十五日兩側腋窩淋巴腺腫張、十六日惡寒、發熱、頭痛その中に妻君が發病。アナムネーゼはマンの料理するのを右手を以て手傳つたと云ふ。十七日夕刻から右肘、腋窩淋巴腺腫張、惡寒、發熱、頭痛、二十四日顔面、兩上肢、胸部に發疹。そこで此の夫婦は熱と痛みとでフウ／＼云ひながら

揃つて來院した。フ、ラ、ウの曰く、「うちの、で、れ、す、け、野、郎、何處で拾つて來たのか分らない野兔を持つて來て、友達に貰つたと嘘を言つたものだから、つい喰べた所がこんなになつて……あゝ苦しい／＼」。此の坑夫さん少しお人好しの方ですが、私の質問にも笑つて明言しない。恐らくは裏山を歩いて、野兔を持ち歸つたものでせう。夫婦者は成書や文献にある様な経過で治癒しました。

私は此の野兔病が茨城縣にあるとは一つの發見だと思ひました。所がリテラツールでは昔からあつたことが分るし、又二、三ヶ月前入澤内科書を繙きますと、此の地方は立派に野兔病の地域なのです。不勉強を恥かしく思ひ、そしてこれが茂木先生のタナゴの御教訓だと考へました。(十月二十五日)

十月の日記

小樽病院 古 山 實

十月十五日 (金)

毎年十月になると患者が漸次減少の傾向を示し、十一月に非常に少くなる筈だが、今年はその傾向が見えない。本日は入院患者五十三名、新患十四名、再來四十名だ。これでは僕の上京中は山本先生辻岡先生は随分忙がしかつた筈だ。

十月二十日 (水)

昨夜九時から看護婦全員を講堂に集めて、擔架の講演をやり、愈々今朝から屋上で演習だ。非常時で國家總動員の秋だ。看護婦も此際は擔架術を充分會得しておかなくてはならない。朝の一時間は相當寒い。既に町の周圍の山々は雪だ。然し支那に活躍中の戦友の事を考へれば、寒いや眠いなんて言へた義理ではない。先づラヂオ體操を二回やつてそれから擔架の演習をやる。

此の日、小兒科の檜崎君の戦死の新聞記事を見る。君は僕よりは一年後で近歩三に短期軍醫で入營して來た人で、今更ながら戦死の報に驚いたわけだ。學生時代も醫局時代も一緒に野球や庭球をやつ

て、特に野球は常に四番打者で強打を誇つてゐた快漢であつた。茲に謹んで吊意を表する。

十月二十四日（日）

愈々今年の野球シーズンも終りだと云ふ意味で。午後二時から小樽中學のグラウンドで病院對市役所の野球試合をやる。想へば四月以來隨分野球の試合をしたものだ。八月に南小樽大會で病院チームが優勝し、九月全小樽大會で市役所が優勝した時は嬉しかつた。此の時は僕が三壘、内科の古館が遊撃をやつて活躍をした。そして札幌の全道大會に出場したが、札幌の爲めに惜しくも準決勝で敗退したのだつた。

今日は結局三對三で七回で引分けた。病院のメンバーは

館	山	田	本	忠	上	岡	谷
	五						
	藤						
古	佐	古	津	秋	佐	井	辻
S.S.	L.F.	P.	III.B.	I.B.	C.	C.F.	R.F.
							II.B.

夜六時半から札幌で北海道外科集談會があるので、山本先生、辻岡先生と共に出掛けた。グラウンドホテルに約四十五名集つて盛會だつた。山本先生は「蛔蟲迷入による膽嚢炎と蟲様突起炎の合併せる一例に就て」といふ講演をされ、辻岡先生は「稀有なるイレウスの一例」を堂々演説し、満場の拍手

を得て、大いに小樽病院の勢威を示した。歸途院長に御馳走になる。

十月二十八日（木）

上海陥落の戦勝祝賀提灯行列がある。小樽病院も参加で僕は軍服を出して久し振りに着てみた。大いに腕が鳴る気分だ。山本院長、本間賢次郎氏を先頭に看護婦は約七十名参列して、公園に集合の上街を歩いた。最も目をひいたのは「白衣の天使」だ。軍歌は印刷して各員に渡し、軍醫中尉の指導のもとに一絲亂れず、提灯行列中の白眉であつた。

十月二十九日（金）

今朝は屋上に本間さんが擔架演習の査閲に来て下さつた。八ミリを撮影して下さつた。それから全員張り切つて演習をやつた。もつと／＼上手にして、皆に見せてやりたいと思ふ。兎に角兵隊さんの様には出来ないが、折角やり出したのだから恥かしくない様にしたいと思ふ。

今日は寒い。後一ヶ月でスキーだ。

高原にて

伊藤 國男

高原には早秋が深い。豊かな芒の穂がげば立つて銀色に搖れてゐる。野菊は紫に愛らしく、吾木香は褐色の玉になつてぼつん／＼と草の中に立つてゐる。爽かな風が、澄み渡つた空に白雲を流すところ、南アルプスと八ヶ岳連峯の間に横たはる釜無溪谷に沿つて、今私の乗つてゐる新宿行の列車は走る。

過ぐる昭和十年の初夏、病を得て信州に旅立つ日、何物かの底へ底へと只沈んでしまふ様な滅入つた氣持に、あの新宿驛の雑踏を、何故か去り難く懐しく何度も見返した心持に較べては、何といふ今日の晴々しさ、何といふ今日の感激であらう。

沿線の稻は豊かな稔りに重く穂を垂れて一面に黄金の波である。二年半振りの汽車旅行に出た私は幼子の様に飽かず窓の移りゆく景色を眺めた。信濃の山々が、後へ後へと飛んでゆく。甲府盆地では房々と實つた葡萄畑も見た。笛吹川の岩に碎ける白い流も見た。笹子トンネルを過ぎやがて小佛トンネルを過ぎる頃には、漸く武藏野の懐しい眺めが目に入つて來た。亭々たる櫛の大木もそれであり、檜や樺の灌木林もそれであり、弓なりに曲つた竹林も亦それである。平野を走る電車もその一つであ

る。

新宿に着いて久し振りに觸れた都會の空氣には壓迫を感じ、騒音と臭氣と目まぐるしい色彩には嫌悪を感じたが、併し夫以上に東京に着いたといふ喜は大きかつた。

久し振りに歸つた我家に一日を休んで、明日は醫局をお訪ねしよう、茂木先生はじめ先生方に御目にかゝらう、誰彼となく院内の舊知の友を訪ねよう、と思ひつゝ眠つた夜の眠りは淺かつた。

九月二十二日醫局をお訪ねし、先生方にお目にかゝり、知友を訪ねた。醫局から診察室、手術室、病棟までぐる／＼と歩いて、こみ上げて來る懐しさを禁ずる事が出來なかつた。そして今更の様に三年の靜養生活を振返つてみたのである。

×

×

×

暗い梅雨空に雲が低く垂れて、周りの山の景色も見られない。時々降り出す雨は遠慮會釋もなく部屋へ吹込んで來る。賑かな都會を今朝離れてこの閑村へ來てみると、余りの靜けさに何となく氣が沈んでくる。病室の直ぐ向ふの青田からは喧しい程の蛙の聲が聞えるが、この蛙の聲が又、しん／＼と胸に迫る淋しさを訴へて來る。

始めての食事が運ばれてくる。日に焼けてはち切れさうな看護婦——カトリックの尼さんの様な布の帽子を脊中へ垂した——の顔は壓倒的な感じを與へる。床頭臺にはアルミニウムのお膳に並べられ

た食事が置かれた。御飯も井に入つてゐる。寒々とした感じに箸を取つて、ベランダに吹きつける雨の音を聞いてゐると、自分が病を得て山の療養所に來てゐるのだといふ事を沁々と感するのである。

かくして日々の熱を氣にし、咳に胸痛に盗汗に不眠に食慾不振に等々、あらゆる症状に一々氣をもんでこの心の亂れて行つたのを恥しく思ひ出す。併し其處を通り越す頃、いつか自分の心持も病氣と共に慢性になつてゐた。

× × ×

「Kさんネタベ咯血したんだつてサ、今度は大分ひどいらしいんだ。先生が注射器持つたりして何回も行つたよ。」といふ様な會話が、患者から患者の口を傳つて擴つて行く。今まで一緒に話もし遊んだりした人が、こんな風にして面會謝絶となり段々悪くなつてゆく事がある。Kさんは三十歳を少し越したお母さんだつた。「私はもう病氣がすっかりよくなつて元氣になる事などは願はないのですが、せめて子供と一緒に暮すことが出来る様になり度いと思ひます。」とこんな事を言つてゐたのを思ひ出して暗然とするのである。面會も出來ずに一月過ぎ二月過ぎてゐる中に、Kさんの室には強心劑を注射する看護婦がしきりに出入する様になる。大きな注射もしてゐる様だといふ話を聞く様になつたある朝、とび歩く看護婦の様子に何が起つてゐるかゞ分つてしまふ。

會ひ度がつてゐた子供も遂にこの山までは來ずに、このお母さんは死んで行つた。裏の街道に近い

烟の横のさゝやかな屍室に、生前の數人の療友の燒香などを受けた骸は、醫者や看護婦に見送られて
釜無川の方の露天火葬場へ運ばれて行つた。やがて松林の彼方に立つ一條の煙が靜かに駒ヶ岳の方へ
流れる。やつと五月になつて咲きはじめた櫻が、村々に山の麓に今が満開である。

×

×

×

三時十五分の上りには未だ大分時間もあり、頼んだ自動車も未だ來ないが、退院するAはもう玄關
に來てゐる。療友も大勢見送りに出て、車寄に集つて雑談に餘念がない。「早くかうやつて歸り度い
な」。などゝお互に話し合つてゐる。「又悪くなつて來いよ、」などゝ冗談を飛ばす者もある。やがて
自動車が來た。退院する者は療友の一日も早き全快を祈りながら、残つてゐる者は退院する人の健康
を祝しながら挨拶を交して、自動車が桑畑の向ふの踏切の方へ見えなくなるまで見送つてゐる。醫者
も看護婦も見送つてゐる。こんな情景は療養所でなければ見られないだらう。

×

×

×

都會に於てはめつたに見た事もない雲の形を見、流れる方向を眺めて今日明日の天氣を考へる。或
は朝焼に、或は夕陽に、眞赤に染め出される雪の山嶺に驚嘆の聲を擧げ、萬物も凍る様な寒月の夜に
身を震はせ、山を五色に彩る秋の紅葉をこの上もなく美しく思ひ、何處からともなく聞えて來る郭公
や鶯の聲に心を躍らせたり、忘れられて居た山への思慕、自然への憧憬が心の底から湧き出して來る。

永い間の安静仰臥の後にはじめて踏んだ大地の感觸は、今も尙忘れる事が出来ない。そして一木一草の姿に見入つて、その潑刺とした生命の力に驚いたものである。

躍る様な太陽の光線の中に、新緑の燃える様な色が目に沁みる。こんな時病室に唯一人仰臥して書見器に本をはさみ一心に讀み耽つてゐる病人を見る。時々右手を出して本の頁を繰るだけである。どうしてあんなに悟りきつた様に落付いて本が讀めるのだらうと、私かに驚いた事がある。併し日が経つて自分も病氣に慣れ、他の人の記憶も薄らぐ頃、この自分が今度は書見器の本にじつと讀み耽つてゐるのに、ふと氣がついて再び驚いた事がある。

一日中二本の足で立つてゐる人は何だか別の世界の人間の様に思はれる。冬になつて前の田圃に氷が張り詰めると、村の子供達は手に手に下駄スケートを提げて來てはスケートに餘念がない。雪の朝ペランダで看護婦達が雪投げをして喜々としてゐる。秋は前の田にせつせと稻をこく農夫がゐる。新緑の候、病院の裏の方の途を三々五々リユックサツクを脊負つて足取りも軽く行き過ぎる男女のハイカーの群がある。之等が確かに目前に見る現實であり乍ら、何か縁遠い世界の映畫の一カットの様に思はれてならない。病人の世界はどうしてもせまい。少くとも外的にせまくて、健康人が考へては凡

そ考へ及ばぬ世界である。

× × ×

「いのちの初夜」(北條民雄)を読む。恐らく何處にも救を求められないであらう思はれる癩者の手記を読んで、この時程自分がTBであつたといふ事を感謝した事はない。少くともTBの方が癩よりは救があると考へられる。「癩者は癩になりきれ」と彼は言つてゐるが味ふべき言葉である。

× × ×

讀書にも疲れた或時を、只天井を見ながら愉快だつた三年間の醫局生活を思ひ出すことがある。

はじめて當直をして夜の回診をし、當直室に寝た夜の緊張した興奮を思ひ出す。はじめてアツペの手術をやつた時の嬉しさを思ひ出す。夜半に起されて息絶えんとする人の脈をとつた事もある。外傷が来て眞夜二本の脚のアムブタチオンをM先輩とやつた事もある。又恐らくは第一夫人を又第二夫人を、泣かせたであらう所の長者の○○○にストリクトールの爲カテーテルが入らないで、眞夜の當直子が三度泣かされた事等も思ひ出して一人苦笑する。

別館横のグラウンドの醫局野球に、ヒットを飛した事も三振した事も思ひ出してみる。勝つた喜も負けた口惜しさも忘れられず、又リレーにテニスリーグ戦に思ひ出の数は盡きない。

と静寂を破る食事の鐘が鳴つて、再び現實の療養生活に返る。さてさて又榮養を攝らなくてはなら

ないぞ。

半年を氷と雪の中に過す永い高原の冬がやつと終る頃、凍つてゐたせゝらぎがチヨロ／＼と懐しい水の音をさせ、野にはもち草が水邊には芹せりが芽を出して、人々の顔には永い忍従から放れた笑がやつと蘇つてくる。五月初旬にやつと櫻が咲き、やがて燃え立つ様な落葉松や白樺の新緑が目を奪ふまで高原の春は短い。春も夏も皆麓から段々と低い山へ登り、やがて高い山の峯の雪を解してゆく。併しこんなにも浮き／＼とした自然を見ながら、TB患者にはこの春から初夏への氣候は油斷の出来ないものであるとは何といふ造化の皮肉であらう。

入江たか子が主役とかいふ「月よりの使者」といふ映画があるさうである。健康者から見た時に或種の人にとつては療養所といふものが、一つのロマンティックな夢の様に考へられる傾がある。又TBといふ病氣そのものが「不如歸」をはじめとして所謂ロマンティストの甘い感傷をそゝるらしいのである。現代の或有名な批評家は病院を分つて、學術的病院、搾取病院、センチメンタル病院としたが、この場合療養所などはその第三者に入れるのであらう。秋風の吹く芒の高原を男なら眉目秀麗女なら白晳朱唇と言つた様な患者が「白衣の天使」にかひ添はれてそろ／＼と散歩するといふ様なイ

マーヅを勝手に作り上げて、或種の人には甘い感傷にひたつてみるのであらう。

所が一方に於て當の患者達は、ともすれば襲はれる生命の危険を感じながら、又生活の脅威を感じながら、もつともつとリアルな戦を闘つてゐるのである。

x x x

十一月半と言へば曉の寒さは既にひどい。早く目を覺して枕から頭を上げ、開け放たれた向ふに東天を仰ぐ。未だ星の光つてゐる空ではあるが、八ヶ岳の裾がだら／＼と低くなる所、全峯や富士の大きなシルエツトが眞黒に棚引く東雲の下に見える。曉の氣が枕に迫る。今朝もひどい霜柱だらう。やがてその雲と地平の間の空が薔薇色にほんのり染つて來る。雲は赤く縁取られる。と見る見る内に薔薇色は褐色となり、褐色は黄色となり黄金色となつて、南アルプスの雪の峯もくつきりと見えてくる。夜明けた。やがて一閃爍として輝く吾等の太陽が昇る。僅かに残つてゐる櫻の霜葉は朝の日に透けて眞赤だ。軒の雀の囀りも如何にも嬉しさうだ。

かくして富士見高原にも今日の新しい日が訪れる。私の心にも新しい希望が湧いてくる。

(十一月一日)

動物園にて

小平

(一) 鹿

晝の暑さがまだ玄關の石段に残つてゐる、それに腰を下したまゝ、園長は、闇の中にうごめいてゐる膾膾たる無心に眺めてゐる様子である。突然に茂みの彼方に閃光が輝いた。動物園の外柵の背を高くする工事を、新聞社の寫眞班が撮影したのだ。先頃豹が逃げ、又々鹿が脱走したといふ記事は、此の寫眞に附け加へられて、園長の心を再び暗くすることであらう、などゝ新聞の記事を心無き仕草の様に思ふ私も、實は動物園に異變ありと聞けば何はさて置き、電話口に園長さん呼び出して、動物の解剖の時間を執拗く問ひ合せるのである。園長よ、恨むなら學會を恨んで呉れ、いや、盲腸炎を恨んで呉れ、

「殴られて死んだのですか」。

無様な質問ではあつた。

「いや、心臓麻痺ですよ。動物が逃げ出すと、必ず走るといふより走らされるので、平生運動不足なだけきつと心臓をやられるです。だから、つかまえた直ぐとカンフルでも注射するのですが、今

日の奴は少し手遅れでした。人間並に交番に連れて行かれたりしてね。」園長は愛兒を失つた面持ちであつた。

動物園の解剖室は事務所の後に在る。その石造りの解剖臺の上に、牝鹿は横たわつてゐた。たゞ乳房のみ、まだ桃色に、他は冷たい色をして、首を長く伸して横たわつてゐた。

「矢張り反芻類ですから胃が四室になつてゐます。」

腹膜を開くと、忽ち現はれた大きな胃袋を腹の外に出すのに一苦勞した。園長が両手に抱へる様に之れを引出すと、私は右腕を肩の邊まで腹腔に突き込んで、後腹膜から切り取つて行つた。胃に次いで現れたのは、薄い大網を被つた、大根よりすつと太い盲腸であつた。横隔膜を弧狀に切り開いて、漸く内臓を出し終つた私共は、机の上にそれを擴げて、外の動物や又人間の夫れと較べて語り合つた。

此の大きな胴體の割合ひに、肝臓の小さい事は意外であつた。平面的にも、人間の夫れより少し小さいのであつたが厚味に至つては正しく、二分の一といふ所であつた。園長に注意されて、鹿にも膽囊が無いことを識つた。馬に膽囊のないことは知つてゐたのであつたが、鹿に無いといふに至つては全く馬鹿々々しい話であるように思はれたのであつた。

「古賀さん、馬では横隔膜が仲々おしい、そうですが、此奴は如何でせうか？」

私の友人が、よくそれで、焼きをやつて一杯飲むといふ話をしたのを思ひ出して言つた。丁度其の

時、園丁の一人にせがんで、片も、の肉を取つて貰つてゐる新聞記者が居た。見世物小屋の錦蛇は美味かつたよ、とかあの麒麟が死なゝいかな、とか待期してゐるいかもの食ひ仲間の一人である。今晚は「しかも、食ひですよ」と言つて嬉しそつであつた。

胃袋の仕末が一番厄介であつた。四室の胃が縦に裂かれて、緑色の生草の儘のような内容は、大バケツに一杯では運び切れなかつた。胃壁の所々から標本をとつて、他は幽門部から切り離された。

「馬には嘔吐が無いそつですな」

「そつ、馬の噴門部には、非常に大夫な括約筋があるので、吐かないのはその爲でせう。馬が毒を喰つた時には全く閉口しますよ、近頃はそれでも特別な胃洗滌の道具が出来てます、眞直ぐな管ですな」。

私は巨大な盲腸の上部に小孔を開けて、その内容を洗ひ流して、十二指腸以下の腸を油紙に包んで頂戴して動物園を辭した。

(二) 河 馬

暑い日中を汗にまみれて解剖室に馳け込んだ時には、腸管は全部縦に裂かれて、解剖臺上に順序よく並べてあつた。その側に、腹を斷ち開かれた子河馬が横たわつてゐた。

腸の長さは凡そ十五米突もあつたらうか、古賀園長の言はれる様に、何處にも盲腸らしいものは見

當らぬ。それでは念の爲め、もう一度しらべようと、齋藤君と二人してシャツの袖をまくつた。

「人間をいぢられる方は、直ぐ手袋をしますね」と園長は笑つた。私共は後仕末のよい様にと、病院からゴム手袋を用意して來たのであつた。

ひどい小腸加答兒であつた。暗赤色の粘膜面に、あちこちと厚い灰色の苔が附着してゐた。盲腸らしい膨隆も憩室らしい所も見當らぬどころか、一體何處からが大腸であるか、さつぱり見當が付かぬ。こんなに切つて無かつたらなあ、と二人して歎いたのであつたが、之れは當然な事なので、後程調べた成書には歴然と、「河馬も亦、熊、鼯鼠、海豚等の如く盲腸を有せず」と書いてあつたのである。

胃は牛、鹿の様に矢張り四室になつてゐた。

「河馬といふより、内臓を見ると河牛といふ方が近いでせう。然し、鳴き聲はほんとに馬の様ですよ」と、園長はヒヒヒーンと眞似をして見せた。

私はそんなことより、河馬に觸つて見ることは、これから先、生涯に二度とありはしまい、などと思つて、テラ／＼滑らつこい鼻先きに斑に生えてゐる毛をつまんで見た。

机上の林檎

今我が机上に置かれたる

丸ろき一つの林檎あり

遠く夢追ふ感傷に

林檎よ、我は想ふかな

机上の林檎よ、陽をうけて

赤く輝き、熟れ熟れて

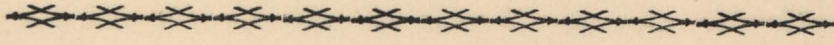
君が頬にも似たるかな

我は手にとり、頬ずれば

濃けき肌の、すべくと

君が掌にも似たるかな

多
香
子



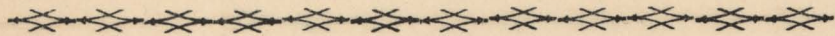
いづこと知らず、胸うつは
林檎の香り、ほのぼのと
君が黒髪にも似たるかな

寒けき部屋の一隅に
獨り靜かに、しみぐくと
今は亡き子の面影を
林檎の秋に想ふかな

飛行機

人世は空飛ぶ飛行機
青空を嵐の中を
高く、低く、速く、ゆるやかに
唯、明日の太陽をめざして飛ぶ

多
香
子



機上よりみる大地は

或る日は薔薇色の美しい世界

或る日は霧に覆はれた謎の國

かくて或るものは大地を、死を

讚美し、恐怖する

私は或る時は空中滑走でなごやかに

紫紺の森影にすべりこむのをみ

或る時は、うめきながら錐もみに

渦まく怒濤の中につき入れるをみる

夜が來れば星が月が希望だ

所詮はつかめない希望と知りながら

寸時もとどまらず目的をもとめて

それに向つて飛行する

發動機がとまれば

凡べては大地へと歸らねばならぬ

宙妖凸鬼退治

あかじん兵衛

昔、昔、大昔、可愛い娘があつたささ

いつの間にやらお腹の中に、オロチ擬マカヒムシの蟲突ムシメ棲んで

時々チヨツカヒ いたします

憎い蟲突ムシメ奴が悪さをするの、なんさかしてよ、お醫者殿

よいしよ引き受けたメスされば、さあーさ一すぢ寸たらず

バラレクタールに血がにぢむ

ふんわり暖かい脂肪層、筋膜わけて肉きりて

腹膜開けばそれ出たぞ、蟲突奴は怒つて赤い顔

頭ふり〜あらはれる

それ捕へたこの蟲突奴、頭きらうか、レトロでゆこか

可愛い娘のお腹の中で悪さした奴勸辨ならぬ

頭玉きゅーさしめつける

娘痛がり身動きすれば、若い醫者殿汗水かいて

今が一番大事なところやあ、今によくなる少しの辛抱

そんなに動くと蟲突奴が逃げる

蟲突奴切られて、きりだされても、娘のお腹にや未練がござる

死んでも死ねないしよつきり棒、そんなに恨むなあさくは

タバコホイテルでうめてやる

供養すんだら傷癒えて、昔變らぬ玉の肌

けれど娘ははづかしそうに、どうせ一度は蟲突^{ムシ}くつた體

よけりや醫者殿、如意のまゝ

なんて話はないかいな

濟生會落語

ひ
か
る

面白い話も澤山あるんですが、今一寸書こうとペンを取つてみてもよく想ひ出しませんが、二、三記憶に残つてゐるイカモノ話を書いてみませう。

文
身

文身もこんなのは少し珍なものと想ひました、寫眞に撮つておかなかつたのは残念でした。それはフランスにあるんですよ、軟性下疳の患者でしたがね、潰瘍のため相當いためつけられてゐましたが、曰はく、「花子」と私はそのイミヂキペニスながめ花子なる美はしの女性を想像してみましたよ。

乳腺炎にメダカ

病院の近くの自動車屋の親父、大の愛妻家、その愛妻が乳腺炎で困つてゐるのをみて生きたメダカが大變乳腺炎にはよくきくと近所の人に云はれ、人を備ひてメダカをもとめけり、冬の事とてやうやく三、四十匹のメダカを得たれば之を鬼手佛心にならひて飲ましめたり、胃に入りたるメダカ、苦しさのあまりもがけば愛妻も亦苦しみに耐へず、胸をおさへて嘔吐せり、胃中より飛び出せるメダカ死にもやらす、ピョン／＼はねたり。

時に膿瘍自潰し、疼痛とみにおさまれりと、親父曰はく、

「乳腺炎はメダカにかきる」呵々。

鐵は腐らぬ

或る日外傷あり、X線でみるに鐵片を認む、摘出をすゝむるに患者應ぜず、それに曰はく、「鐵は腐らぬ」、院長笑ひて、「鐵は腐らぬかも知れぬ、されどお前さんの筋肉の方は腐りますよ」、と患者唯々として治療に應ぜり。

完全なる婆さん

市電に衝突したりとて八十九歳の老婆來れり、頭部と足部を打撲せりと、老婆いたつて元氣にて、途中嘔吐せざりしやと問へば「へい、私はこの年まで胃腸はいたつて完全なものでしてへい」と、次に膝關節をまけて痛くはないかと問へば「へい、この年になるまでいつも座つてばかり居りましたからまげる事などは至つて完全なものでしてへい」と小生いさゝか啞然としてしばし老婆が顔をうちながめり「あゝ長生はしたいものじゃ」。

歌讀む心

完全なる婆さん小野小町ファンにて歌など作りてたのしめり

神々の恵をやどす若草や

とわの春邊に香りおらん

この頃の事、醫局にも歌人續出したり、歌讀む心をKオトド説いて曰はく、「嬉しい事、悲しい事、怒りたい時、不満やるせない時、戀しい時、淋しい時にはなんでもそれを素直に三十一文字にしてみます、「心は自然となごやかになり、人世はたのしいものです」そういふKオトドの萬葉調の歌

今朝になり我が罌丸少し痛む

ゆうべの亂行すぎにしかも

同窓會記事

同窓會總會及茂木先生謝恩會

編輯員

四月三日外科學會が吾が茂木先生の宿題報告によつて幕を閉ぢて、雪崩出る會衆と共に外に出ると最早邊りは夕闇であつた。三々五々仲間を作つて醒め切らぬ學會の興奮を其儘圓タクに乗せて本年度同窓會々場の赤坂幸樂へと走つた。幸樂は例の大廣間、今日は三色旗に萬國旗と、天井は嘗て見た事も無い滿艦飾である。遠近の同窓諸先輩、學會を利しての御出席に總勢一〇三名と云ふ大盛會である。昨年末からの茂木先生謝恩會が延期となつてゐたので、此の日に先生謝恩會を合同させて戴く事にした結果、宴會場は彌が上にも賑はしさを感ずる。茂木先生には正座に悠然と腰を据えられて數多老會員に取り捲かれ如何にも御満足そう。先頃迄の御奮闘の御苦勞の色もなく朗々として挨拶の辭を述べられた。次で木村先生の御挨拶あり、遙かに静岡より上京せられて居た佐藤先生の謝辭あり、會員一同も一荷下した心地にて唯陽々として心の和かなるを覺えた。やがて美妓出で、酒肴亦整へば忽ちにして酔は全身を馳け廻る。何時の間にやら様々の形の紙の色帽を冠り、爆竹は鳴つて五彩のテープは蜘蛛の巢の如く頭上に懸つた。先生の音頭にて同窓會萬々歳、次いで吾等が茂木先生萬々歳、此の日程御満足そうな先生のお顔を拜した事は近來に無かつた様に思はれた。

御禮の言葉

編輯員

例年の様に各地の皆様から四季を通じて数々の珍味を頂戴するので、醫局の者共は居乍らにして皆々様に御案内して戴きながら全國食行脚を致して居る様です。茲に重ねて厚く御禮申し上げます。其の都度の御禮状或は洩れ失禮を申し上げた事がありはしまいかと懸念致して居ります。何卒御海容の程願ひ上げます。

お知らせ

- 一、今般茂木先生より御内祝として金一封を同窓會に頂戴致しました。重ね／＼の御鄭重なる御挨拶に深謝奉る次第で御座居ます。右は次の同窓會席上に於て御披露申上ぐべき處、取り敢えず御報告申し上げます。
- 二、茂木先生の御慶事に際して同窓會より既報の通り御祝品を拜呈致しました、此費用は同窓會々計より支出しました。

昭和十二年度會計決算報告

(自昭和十一年十一月二十五日
至昭和十二年十月三十一日)

本年度收入概要

昭和十一年度繰越金

二四二九、二四

同窓會費入金

五八七、〇〇

本年度收入

一四〇四、九三

出征會員慰問寄附
會長香奠返シ

五七七、〇〇
一〇〇、〇〇

本年度支出

九八六、六六

雜收入(寄附及利息)

一四〇、九三

差引

四一八、二七

計

一四〇四、九三

昭和十二年度差引殘高

二八四七、五一

本年度支出概要

內譯

刀林發行費

二九八、〇〇

安田銀行特別口座預金

一三五六、一五

出征會員慰問及餞別

五八六、一四

振替貯金

一一三三、二九

香奠(四名)

七〇、〇〇

現金

三六二、〇七

雜支出

三二、五二

計

九八六、六六

以上

昭和十二年十一月十五日

整形外科

同窓會會計

鵜澤

慶應義塾大學醫學部外科整形外科學教室同窓會々則

總 則

第一條 本會は慶應義塾大學醫學部外科整形外科學教室同窓會と稱す

第二條 本會は慶應醫學の發展に盡し會員相互の親睦を計るを目的とす

第三條 會員は外科整形外科現教室員及前教室員を以てす

第四條 現教授及前教授は名譽會員とす

第五條 本會は役員として會長副會長評議員及幹事を置く

會 長

第六條 會長副會長は名譽會員より推戴す

第七條 會長は本會を主裁す

第八條 副會長は會長を補佐し會長事故ある時は其の事務を代行す

評 議 員

第九條 評議員は會長若干名を指名し任期は一年とす

第十條 評議員は會長の諮問に應じ本會の事務及事業を協議す

第十一條 定期評議員會は毎年一回總會當日開催す

第十二條 評議員會は本會の緊急を要する事項を決定し得

幹事

第十三條 幹事は會長の指名により現教室員之に當る

第十四條 幹事は會長の指揮に従ひ一切の事務を處理す

總會

第十五條 定期總會は毎年一回學會開催地に開催す

第十六條 總會に於ては事務の報告をなし又本會の重要事項を會長及多數會員の賛成を経て決定す

事業

第十七條 本會に於て決定せる事業は同窓會内規として記録し幹事之を保管し會長の指揮に従ひ實行す

會計

第十八條 會員は會費年額三圓を納入す

第十九條 會費は會長之を保管し年一回決算報告をなす

附則

第二十條 會員不都合の行爲ありたる際は會長之を役員會に計り除名す

第二十一條 會則の變更は總會に於て決定す

同窓會 內規 (會則第十七條)

- 第一條 評議員は東京附近在住考慮
- 第二條 總會は開催地に不便ある時は開局紀念日にでも行ふ
- 第三條 謝恩會を同窓會にて行ふ
- 第四條 會員名簿を作ること
- 第五條 會員の寫眞帖を醫局に保存す
- 第六條 刀林を毎年十一月頃發行す
- 第七條 會員の禍福に慶弔の意を表す
- 第八條 支出事項(本人死亡二〇圓・直系父母妻子死亡一〇圓・災害見舞 不定)
- 第九條 醫局會計と重複せず
- 第十條 會計年度は十月三十一日を以て終る
- 第十一條 會費徵集は五月とす
- 第十二條 決算書式(省略)
- 第十三條 出征(戰爭並事變)に際して三〇圓を餞別とす

以 上

本年度同窓會役員

會長 茂木藏之助先生

副會長 木村博先生

同 前田和三郎先生

評議員(いろは順)

犬養六郎君 岩原寅猪君 畠中卓助君

大庭國紀君 大曾根幾次郎君 鎌田竹次郎君

上石英造君 神山敏雄君 橫山虎雄君

竹下貫一君 梅村六郎君 柳壯一君

山本順君 町田謙二君 藤原道純君

佐藤太平君 篠原靜夫君 土方久顯君

百溪定七郎君 以上十九名



醫局欄

葉山清遊之記

岡品男

學會の重荷を降しほつとした晩春の一日。

約を違へず醫局に顔を出したのは「角」、「彦」、「光」、稍々後れて此の日案内役の「厚」それに容易に腰を舉げぬ「文」を促して正門に出れば本日の主謀者「忠」息せき切つて飛んで來る、これで役者も揃つて一同「素地」を出してうるさくなる。

東京驛で食糧を遠く丸ビル迄手を伸して仕入れ、横須賀線は立ちん坊で逗子着、以後は「厚」の厚顔を頼りに連れられて行く、葉山附近隨一の名勝長者ヶ崎を廻つて下車、ダラ／＼坂を昇り汗ばむ頃「厚」の別荘に入る、遙かに相模灘をへだて、富士を眺める景色と云ひたいがその手前に庭前の松林と

云ふスクリンがある。麗らかな陽差し、庭のスギナの褥に顎と共に長々と寝るは「角」豆々しく晝めの仕度をするは「忠」ノソリノと勝手知つたる他人の家と心易く何んでも引きすり出して來るは「光」早や一升ビンと仲よく居るは「文」その間何もせず居るは「彦」と「厚」冷やとは云へ日本酒に配するにソーセイヂあり、豆あり佳肴の數々、飯は各自持參の握りめし。腹の皮張れば目の皮たるむ親は死んでも食休みと河岸の鮪の如く高野。

一升瓶に別れ切れすブラ下げた儘濱へ出る。風が強くて船遊びは止めて濱沿ひに長者ヶ崎の巖頭に廻る。風を避けつゝあちらの岩蔭で一杯此方の岩蔭で一杯とやる。茶碗の酒の氣も紙屑と一緒に遙か米國の方へふつ飛んで一向に景氣が出ない。遂に岬の崖の上で瓶に止めをさして空屋に引き上げる。とこれは驚いた事に風呂が沸いて居る。窓を開けて見上げれば名残りの櫻が一本春の誇を枝に見せて居る。柄にもなく、櫻など眺めて思はず長風呂の茹で蛸になつたのは「忠」、「光」初夏の太陽が江の島の上に廻つた頃お御輿を舉げた。長者ヶ崎から一つ飛びで逗子へ。横濱で下車するかしないかで賑かだつたが近所に座を占めた一群に牽制されて新橋迄來て了つた。

この一日の清遊を此所で分れては佛作つて魂入れすと云ふ事になり、銀座裏の「銀八」なる所で夕飯を了へて、それでも根強く分れずに（分れたら損をする怖れがあるらしい）病院へ乗りつけた、そこでいよゝ解散したが、それ迄は（と云ふのはその後知らぬと云ふことですか）完全な神に契つ

て清遊であつた事を聲明する。

但し「銀八」で「厚別宅」のお土産の草花を乞はれるが儘によし／＼とばかり目尻を下げて（或は地顔でも下つて居るのかも知れない）皆んな提供して了つた人があつたのが唯一の事件であつた程、事程左様な清遊であつたわけだ。

一切の敬稱を略した點及び當りさわりがあつたなら重々御勘辯の程願ひ上げます。

歡迎旅行記

編輯員

新入局員歡迎旅行といふものゝ、新入諸君を喜ばせんが爲めはもとよりさることながら、オールドボイスの一年間の羽伸ばしといふ件が幹事諸君の頭を悩ますのだ。それも近頃の方々は大幅理解があるので幹事一任OKで、二つの物件が具はれば文句無しのお老童連に、風光を賞でよ！の幹事諸君を満足せしむべき場所は國立公園箱根函嶺を置いては何處にあるべきか、費用の事を言ふな、懐は幾何でも、いや幾何でもあげて見せるといふ名幹事揃ひなので。

扱、學會は終つたし、伸ばせよ羽を、展げよ胃の腑を、汽笛一聲、東京驛を早や吾が汽車は離れぬ中に、紙の盃に滿々とつがれて居つたのは毎度の旅行と著變無し。今年の新人は案外小粒があるからどうやら太刀打ち出来そうだわい、とて氣を許せるがそも／＼の誤算、盃の中にあぐらかいてる様な輩揃ひとは知らなかつた、何時かフラ／＼になつて小田原邊りで引つ張り降ろされ、ちよいとバスターのお尻をつゝいてゐる間に目的地宮の下に着いて仕舞つた。おゝ、ゐるぞ／＼、奈良屋の玄關右手に立ち並んだのは何れあやめかきつばたとも定め難き麗人哉。鼻をなめるように一人々々に御挨拶申し上げて座敷に匍ひ上げれば早川の溪流はさん／＼として足下を迸り、峨々たる峯は眉を壓す、春酣

なりと雖、鶯鈴襟に寒し、酔の醒めかゝるをドンブリと湯槽につかれば、さてこそ、お湯は底倉宮の下、ウイーツ。

さて宴會である。新人の自己紹介に一つ一つ野次を飛ばすと、脇に侍る麗人が「可哀そうだわ」とて臀をつねるのが堪らなく、無精に舌の滑りがよくなる人がある。盃が流星の如く、踊りが尾張町の様になると一人消え二人消え、宴會場は何時とは無しに寂漠として寢轉んで居るのは徳利ばかり。

歓迎旅行の朝は寢床の中の、つゝましやかな會話に明ける。夜更けて宿の臺所に侵入してお茶づけを食べて來た話、日頃十九路軍の様に信賴して居つた吾が精銳は督戰隊の鼓撫を裏切つて全く言ふことを利かなかつた話、さては、流石は天下の嶮、箱根の山には石女が棲んで居るよといふ話、等々。例年の旅行であると、此處で又、朝寢朝酒、それから場所を換えて晝間の宴會といふことになるのであるが、流石非常時を洞察して居つた名幹事諸君のプランに、そのありよう筈が無く、朝の九時の食事には散會、その後は昨夜聞いて置いたハイキングコースを三々五々仲間を作つて、或は岩を馳せ登り、或は湖上に濤を蹴り、丸一日を行樂して無事に家路に就いたのは、一同心身共にあつくちが宜しかつたであらうと愚察仕る次第、失言多き段御寛容の程願ひ上げます。

箱根八句

川柳一年生

新人は門出の旅と勇み立ち
流線型箱根八里も何のその
ドクトルは鶯の聲に藪にらみ
自己紹介酒のおかげで野次がとび
幹事さん〇〇〇の世話で大童
温泉に何度も這入つて元をとり
二日酔い思ひくのコースかな
二人者新婚旅行を思ひ出し

下谷病院便り

名 倉 生

鶯谷驛より程遠からぬ處にある下谷病院は、慶應病院と比較すれば少々よごれて居る感はあるが内容は充實して居る。東京府醫師會の病院だけに開業醫の紹介がなければ診察を受ける事が出来ない。そして健康保険の患者が多い様である。外科の病室は其の三階にある。林擘先生を院長として居るが臨床的には町田助教授が外科部長として小林常吉先生と隔日に外科の總廻診が行はれる。外科の醫局員は現在五名居るが皆我が慶應外科の醫局員にて午前九時に醫局に集つて勢揃ひをなして交換臺と共に各病室を一度に廻診を行ふ。之れが終ると息をつく暇もなく醫局員は外來に廻る。此處にて新患、再來共に診察を行ふ、矢張り外來は正午迄にてそれより皆打ち揃つて食堂に向ふが食堂が八疊内外の大ききで醫員が手をたゞけば、賄の給仕が晝食を持參する。食後は當直室に或は屋上に休養するのであるが、此處の屋上が又氣持ちよい眺である、淺草の觀音様のお堂も上野の森も手に取る様に見える。只工場の煙突の多いのが玉にきずである。

午後一時より外來掛りを一人残して他は大概手術場に入る、仲々優秀な手術場で、手術の數も慶應

の方と大差ない位である、午後五時よりは當直の時間となるも外科醫員は隔日に當直する事になつて居る。夜中の特診患者は町田先生に報告をする。それより醫局員の夜間召集が行はれる事がある。患者は矢張り蟲突炎が多い様である。殊に目立つのはプリメールのアツペは少ないことで、それは開業醫から廻つてくるせいであらう。之等のムンテラには少々頭を悩まされる。その外、外傷の多い事も可なり目立つ。看護婦は慶應と服装を同じくして居り、仲々成績も良い相である、皆よく働いて元氣で氣持良い。

我々の同級生五名は昨年我が外科醫局にて擔當せる宿題蟲様突起炎に關し、出張交代を延期され町田先生の下に於て今年四月迄で大いに努力した相である。

其の後を受けて四月には渡邊、小坂の兩君が出張し、尙五月よりは河田君及び小生が派遣せられ、又六月には伊藤原君が來られて、此の五人にて働く事となつた。伊藤君は整形の方の事に關して何かと重寶がられて居る。

兎も角各科共醫者は良く移動するが親み深い病院である。

茂木、大槻外科懇親會

編 輯 員

大槻外科との親睦野球試合は我が軍の技倆優れ見事に戦捷。意氣揚々として夜の宴會場帝大構内山上御殿に繰込んだ。既に大勢來てゐる、控室ではお茶を喫り乍ら大槻外科の連中と入り混つて懇談を重ねてゐる。

その中に宴會が始り型の如き挨拶を終へて、大槻教授の御話があつた、大槻教授の語り振りに親しみ易い溫情が感じられた。續いて我が瀬尾主將のカップ返還があり、直ちに小島君の手を経て再びカップ受領が行はれた。

これが終るとビールか出、料理が出て、あちらこちらに聲高い快笑が起り、冗談野次が飛ぶ。偶々話は時節柄北支、上海の野にうつる。その話すところに依ると大槻外科でも召集者可成り多く數十名戦死者一名との事であつた、ビールは後から／＼と出る。料理も出る、古い連中は顔見知りの人多く盛んに舊交を温めてゐる。

大槻外科の連中は仲々元氣があるのが多い様である。ビールは盛んに注ぎつ注がれつ胃の中に流し

込まれて、料理も殆んど平げて了つた頃、拍手を浴びて

大槻外科の一人、颯爽として正面に出て討匪行を唄ひ、その音頭を取り出した、その元氣の旺んな事感嘆の聲を放ちたい位、皆押され氣味となり従つて唄ふ。然し押されてはならない、我が慶大外科の面目にかけても!! 忽ち新人長屋君を送り、素人放れの物真似に大槻外科の連中をアツと云はす。

彼等もさる者、通稱「デコちやん」の餅つき、「且つく」の詩吟を初め次々と追撃して來る。その猛烈さ、晝間の野球の際の面目を一新してゐる。然し我等は數多の藝人を戦地、出張に出し、その手薄を歎くと雖も、新人城君の日本陸軍の歌、同じく新人の許君の塾歌「躍る太陽」、山口君得意の俚謠、瀬尾主將の西藏の唄を以て應戦、その技伯仲、その盡くるところを知らなかつた。

此の間大槻教授は我々と共に飲み、食ひ、且つ語り、快く此の心置きな演技を見て居られた。

最後に若き血の合唱をし、茂木、大槻兩教授の萬歳、兩外科醫局の萬歳で散會をした。

誠に楽しい名實共の懇親會であつた。

新入局員紹介（第十五回生）

文責 N G Y

西 新助君 産は福島縣である。東北人特有の粘り強さと肌艶を有する好男子である。野球は飯より好き、バッターも相當効く。去る大槻外科對抗野球戦では眼の覺める如きプレー振りの一壘手を務めた。學問も相當の粘り強さを發揮して居る。

一面、亦湯豆腐などで一杯、シンミリとする事もあるとか。

奥山俊夫君 ヘルツの強い事、口の悪い事では新人中群を抜いて居る感があるが、悪氣は微塵もない。數年來のリーダーと卒業すると直ぐ結納を取り交し、徴兵検査が第二乙であつたので、もう少しで、おあづかりになりさうになつたのを十一月には華燭の典を擧げるとか。一日置き位に彼女から惱ましい電話が醫局に掛けられ、その電話の受繼ぎに十五回生一同のみならず、老輩迄相當悩まれたものである。彼仲々がつちりして居て「オゴレ〜〜」と云つてもヘルツの強さを發揮してオゴル所か益々のろける仕末である。

病院でも仲々調子宜しい。八月から水戸常盤病院に出張して居るが要領良く働いて居る事であらう。スポーツはボート、水泳、ラグビー等と仲々自慢の種である。アルコールの行かないのが玉にきずの美男子である。學問の方はそれ相當である。

大沼良雄君 既に短期海軍々醫中尉殿である。學生中より、いと頭頂の薄きを心配して居たが、毎日軍帽を被り通しでは、二年後が思ひやられる。左ピッチャーの名手、水泳、テニス、バスケットと、仲々器用だ。ヴァイオリンをあのホツテントットの如き大なる臀部をつきだし引く姿を再三見たものである。整形入局後、早速「狸」なる有難き代名詞を頂戴したさうである。又直ぐ感嘆詞を連用する性質である。

「ヘー凄げなア、ホー偉いもんだな。フーン、さすがは」

いづれ上海に出動して大活躍をなす事であらう。

武運長久を祈る。臀部をくれくれも氣を付けて呉れ！

渡邊重男君 一見オツカナイ型である。ひげ亦あく迄濃い。柔道は五段の猛者である。内心は實に良き人間である。女にかけては彼一流の理窟を有して、相當遊んだらしく、その話が亦仲々面白いのである。

短期軍醫候補生として既に七月入隊致し、十月〇〇方面に出動して居る。彼は物凄いガンバリストにて彼に剣道にて御面をやられると二、三日頭痛がある由。以て腕力の偉大さを知るべし。その腕でチャンコロの千人切りをやつて呉れ。多幸を祈る。

田邊重信君 大器晚成悠然型の人物である。仲々物に動ぜざる所あり。酒は一滴も飲めぬが、あの道は仲々らしい。女の子には實に甘くニタリ／＼とする方である。

亦隠れたる詰將棋の權威である本を著し、アルツトよりこの方面が本職である如き感あり。

麻雀、撞球共に専門の腕あり、良く遊び、宿直室を賑はす一人である。その昔謡曲などもうなつた仲々濛い日本

趣味もある。

甲種合格短期軍醫候補生合格致し、十一月一日近衛歩兵第一聯隊に入隊となり、彼大いに張り切つて居ます。

武運長久を祈る。

中島三次君 九州男子の快男子である。笈を負ふて下駄ばき、浴衣がけハンチング姿でブラリ／＼と、學成らすんば死すとも歸らずの意氣に燃えて、上京したのも、七年前である。今では仲々のゼントルマンである。但し未だに下駄ばきの方が靴より性に合ふらしい。嬉しい好漢である。

スポーツは萬能選手である。その裸體美には女ならずともスポーツとする。

彼、宿直の時は別館に越中禪を二枚持つて來て居て、入浴毎に洗ひ入口にほして魔除けなどとシャア／＼として居る。ブレも禪の、のれんは、くゞれまい。

學生時代には競走部で大いに張り切つて居た。アルコールは強き方である。飲むにつけ悲憤慷慨し、手に盛に唾を吹きかけ鬢聲を張り上げてわめく事も稀にある。又體に似合はない妙な音聲を出して歌を唄ふ。一度飲まして試して御覽じろ。

彼も短期軍醫候補生合格で近衛歩兵第三聯隊に入隊致す事になつた。快男子よ戰地で立派に働いて來い、必らずや待望の嫁御寮は世話して貰ふやうに先輩に頼んで置くから。

長屋信美君 生粹の江戸ツ子、父君は嚴格なる武人なりしも、其の子父に似ず、至つて御婦人には軟い、然し心まで軟いのではないらしい、ニヤ／＼する割に、いざとなると下駄を捨て、逃げ出す方である。一杯飲ませたが最後、誰

彼の區別なく顔を嘗めて歩く。斗酒尙辭せず、陽氣な酒亂ではある。運動は何でも来いと云ふ處、今更紹介する迄もない、學問の方は、遊ぶ様に見せ乍らチャツカリやる方らしい。御容姿は甚だスマート、付き合つて飲みに行つた奴は必ず貧棒籤を引かされるといふ美男子、嘗め癖さへなければこんな恵まれて生れて來た男もあるまい。今度短現の軍醫さんになつて、二ケ年もアレがお預けを喰つたのは彼の爲め、衷心より同情すべきである。やがて除隊の曉はさこそ猛烈さが思ひやられる。

植草 實君 新人中、メラニン色素異常増殖にては斷然トップを切つて居る。彼に言はしむれば生れた時は女の子の如く白かりしと。見た事もないくせにこの事を以て淡き慰めとして居る。

バスケットの大選手なり。前記の事實もバスケットに熱中の餘りの後天的の物といふ。

去る日、先輩軍との競泳會に三田プールに花を咲かせた彼でもある。リレー宜しく、スタートしたが、勇ましく水中に異様な音と共に潜り、應援者アレヨ／＼と、あせる中に悠然と同個所にボカリと浮び上りフーツと一息？やがてもがくが如く、匍ふが如く泳ぎ始めた水泳の隠れたる大家である。その後大いに練習を積んだとか。あの時の名演技は二度と見られない事だらう。圍棋麻雀も時には手にして居る。學問も折々圖書室に頑張つて居睡りもして居るとか風の頼りて!!

久保秀夫君 植草君に劣らざるメラニン色素所有者である。エンコの附近に住居を有する江戸ツ子であり、エンコ者である。

「べらんめ」語も使はせ度い位である。幼時よりペラ／＼とやるやうに教育されたと見えて、英語、獨語、佛語など

仲々に相當にコナシて居る。仲々世話好きで我々入局後も何かと我々の爲に世話して呉れる。

丈の一寸低いのが悲しい所であるが、未だ若い伸びる事であらう。水泳の猛者で夏ともなれば艶の黒さと、相和して仲々に幅をきかせて居る。秋は専ら寝て食つて一日を過ごして居るらしい。しゃぶれば、しゃぶる程味の出る鯉節のやうな男である。誰れかしやぶつて見て下さい。但し女の子には、しゃぶらせ度くはないです。彼の男を下げる原因ともなりますから。

櫛田敏也君 「M・P・I・N」の愛稱あり。由來は彼自身より聽かれよ。

感激性に富む事人一倍にして、酒を飲み感慨無量ともなると涙をボロ／＼と出し、手離して泣くのである。實に良き天真爛漫性の所有者である。女の子にも持つゝ困る好男子なり。事スポーツに關しては本職のバスケットの外、野球、テニスなどするが、何事でも餘り張り切り過ぎて、エラーをする事が多い。但し、彼と運動すると實に氣持良き次第である。又人を纏めるに良く先きには「M・P・I・N」チームを作り後には卒業の置土産に書道會を創立し字の方は相當物するらしい。學問も要領良くやるし遊ぶ方もマーヂャン、圍棋と多方面であるが、學生時代より、苦學力行、家庭教師の経験もある。

軍地良亮君 學生時代より餘り人と話をせざりし無言の居士であつた。頭の方は仲々優秀であつた。

アルコールは斗酒尙辭せず、飲み出すと梯子酒をせぬと、濟まない方でありしと。最近は慎しんで居るとか。一時熱烈なる戀をしたといふ。

残念な事には病を得て歸郷靜養中であるが一日も早く快癒の上醫局に來られん事を祈る。

山田二郎君 倭小なれどひげ異常に濃し。彼仲々に愛すべき美男子にして一度手を口にして微笑ば、男子もホロリとする。まして、女の子に於てをや。學生時代より名を賣つたものである。馬術の選手である。乗る事は兩道にかけ旨いものであらう。

彼も短期軍醫候補生として、只今、近衛歩兵第三聯隊に在隊中なれどいづれ晴れて軍醫中尉に昇級し、戦線に出動の日も近い事であらう。

但し、今の所幼年學校生徒に時々間違へられてクサつて居る。盡忠報國頑張れ！ 好漢！

高和壽次君 圍棋道の一方の旗頭である。入局早々から徴兵検査には、甲種合格なりと考へ、四月の臨時募集に應募せしが残念ながら不合格となり、検査にては丙種となり、落膽した程の張り切り方である。

目下、良きベター・ハーフ選定中なり。條件は「きりよう好み」である由誰か世話してやつて下さい。醫局にあつては朝早くより圖書室に頑張る事もあり。又、スポーツも水泳、野球、テニスと仲々旨いものである。

大槻外科對抗野球戦では名キャッチャー、名バッターであつた。水泳は少しフェット・ライビヒでスピートも、仲々速い方である。

合原義泰君 ロイド眼鏡、天然ウエーヴの「シツクボーイ」を以て、自認して居る。その昔謡曲などなつてちよいと濛い所を見せたものであるが、あの道も相當で、銀座、伊勢佐木町等で仲良く歩いて居る姿を時折見た人があるとか。圍棋方面も何んとかこなす方である。

九月より静岡日赤へ出張して大いに彼一流の腕の冴えを見せて居る事であらう。

東京戀しの念止み難く毎週のやうに上京して居るが「ゲハ」は續きますかネ!

ヘルツも益々強くなる一方であらう。歸局後が思ひやられる。

許添旺君 臺灣より幼時より出京し、學生中は仲々の勉強家であつた。一名「一言居士」のニックネームあり。何かと一言なかるべからずである。テニスの大選手であり醫局中でも最優秀者である。

碁、將棋も自稱天狗の方である。麻雀、撞球と遊ぶ事には可ならざるはなし。酒の方も仲々強いし興到ればジンゲルなどと、ダンスもする反面非常なる理性の持主である。

彼幼時より父を亡ひ、相當苦勞し、彼一流の處世觀を有して居る。暇があつたら、ジツクリと聞いて下さい。許先生、何處へ一緒に飲みに行つても持て過ぎるので、些かあてられ氣味ですよ。

時々、フルンケルを變な所にこしらへて飲む事も出來ず歩けもせず、クサつて居た事もあつたものである。

木村將義君 モーリス・シュヴァリエ張りのウンテル・リツベの突出が特異だ。フラウを持つてから特に著明になつたとか。彼學生時代よりクラス統制に妙を得て居た。

我々が、クラス會などで引搔き廻はすと、やをら、立ち上つて、左手をヌツとつき出し、五本の指を全開して「まあ、えゝ、まあえゝ」と東北辯振りで何んとかまとめてしまふのである。尙新入局者唯一のフラウ、子供持ちである爲か、一寸若い者の頭の上らぬ事がある。此の頃妙に讀者慾が出て圖書室に入り込むとか云ふ話である。

酒も良し、時に麻雀もするそうである。

城 俊輔君 五尺六寸以上の偉丈夫である。仲々のスローモーション居士である。

去る徴兵検査に名譽にも、甲種合格となり、年來のフイアンセとのハイラーテンも二年の延期となり、些かクサリ氣味とか。誰か彼を慰める良き、メトードはないですか？

但し頭は坊主にして短期軍醫候補生として、第一師團第一聯隊に入隊する事になり、國家の爲盡忠報國の誠を示さんと遠く北支、中支の空を眺めて張り切つて居ります。尺八を口にしては蘭童以上の適評あり。

アルコールも仲々強く時々、銀座裏のバーで勇姿を見るときか。女の子にも相當甘い方である。テニス、野球も旨いし、麻雀、撞球も好きの道である。

權守英夫君 熊本醫大より入局された方である。今様西郷のスモール、サイズと云はれる風貌の持主である。全身毛髮の異常發生では、新人中第一位である。悠然せまらざる所あり、薩摩犬でも持たせたい位である。實に良き人柄である。嘗てはラグビーの大選手であつたとか。

酒は直ぐ赤くなる方であるが、あの道は仲々の豪の者である。マーヂャンも近頃凄く腕が上がつてウズ／＼して居るさうであるから一度彼にチャレンジして下さい。

甲種合格短期軍醫候補生として、近衛歩兵第三聯隊に入隊の由義勇奉公の道を擧げられん事を切に祈る。

醫局日誌抜抄

編輯員

皆様御存じの醫局當直日誌、毎朝出勤しては昨夕は何か無かつたかなと開けて見、徒然のまゝにちよいと手を出したり、新聞の切抜きをたん念に貼り付けたりする、當直日誌こそ實に年中無休刊のニュース版であり、又大切な光輝ある吾醫局のメモなのです。昔の皆様がペンを奮はれた頃の様な飄逸な記事や輕妙洒脫な漫畫が近頃とんと見られぬのは編輯員獨りの嘆きではありますまいが、それでも之れを繕くと、醫局の動きが些か窺はれます。各頁をすつかりお目にかけ度いのですが、それもならず、此處に主な事を抜抄致しました。その時期々々の様子を御想像下さい。本年度は昨年十二月初より始まります。

十二月二十三日(水) 整形保育園のクリスマス、午前十一時より機械室にて保姆門村君の人形芝居紙芝居其他園児の唱歌等があり、更に前田先生がサンタクロースに變裝されて子供達にお土産を分配されたので子供さんのみならず親兄弟まで大喜びで大繁盛、十二時半頃名残り惜し氣に散會。

十二月二十六日(土) グルンドの各教室同窓諸兄よりお歳暮清酒一斗。

一月十八日(月) 古川君論文通過、幸樂にて有志祝賀會。

一月二十四日(日) 野崎寛三君結婚、祝文、野崎山、木村川の初顔合せを祝ひて、(一)四角張つた土俵の上で圓くおさまる野崎村(同窓會)(此の句の最後の野崎村は實はもつとよい結句なのでしたがあまりうま過ぎたので變更されたのです)。(二)芽出度さや獨身會を除名され(獨身會)。(三)木村より野崎に注ぐよしの川海原寛ろく瑞氣三つ

らん(醫局)(註)注ぎ方が逆ではないでせうか？

一月二十三日(土) 内閣遂に總辭職。

二月五日(金) 瀬尾君講師に昇格、新宿聚樂にて祝賀會。

二月十九日(金) 第三五七回外科集談會、當外科當番、日本醫師會館にて、出演渡邊治、百溪、赤倉君。

二月二十二日(月) 祝大連牛久昇治君之論文通過。整形集談會、小柴君出演。

三月十三日(土) 此頃より宿題陣中見舞殺到す。犬養先生より、大森教授より白鷹。

三月十七日(水) 陣中見舞唐澤教授よりビール二打、川村教授よりヨーカン一箱。

三月十九日(金) 陣中見舞森文雄君より爛漫三升。

三月二十日(土) 同右西野教授より。今井秀雄君御母堂御逝去。

三月二十二日(月) 瀬尾君論文通過、幸樂にて有志祝賀會。此頃學會切迫し醫局は戦場の如し。

三月二十九日(月) 鎌田君助教授に昇格せらる。

四月三日(土) 第三八回日本外科學會最終日「急性蟲様突起炎」の宿題、茂木先生の御演說音吐朗々三時間餘

滿堂唯謹聽一人の退場者無く吾々一同非常なる感激を覺え一年の勞苦一朝に報いられたり。夜は幸樂にて茂木先生謝恩會を兼ね外科整形外科同窓會總會開かる、出席者一〇三名。

四月六日(火) 午後六時より醫局茶話會開催。神風號飛び出す。此の方が緊張。

四月七日(水) 中山一郎君、木村嬢と結婚。

四月八日(木) 竹下貫一君御尊父御逝去。

四月九日(金) 神風號、零時三十分ロンドン到着、醫局も大亢奮、大感激。

四月十日(土) 新入局員十九名初顔見せ。松浦軍醫中尉滿洲國勃利陸軍病院赴任、午後九時東京驛出發。

四月十四日(火) 石川七郎君緒方嬢と結婚、茂木先生御宅よりお壽司澤山頂戴す。

四月十七日(土) 鎌田助教授、瀬尾講師昇格祝、今井秀、菅、小林不君送別會、岩崎、蓮江、郭、森田君歡迎會を兼ね、職員食堂にて盛大なりき。

四月二十日(火) 午後六時より職員食堂にて鎌田助教授御渡伯送別會開かる。先生のブラジルに於ける吾國醫學眞價發揮されんことを壽ぐ。

四月二十五日(日) 佐藤壽郎君、熊田雪子嬢と結婚、祝文、壽の郎が心の春に雪とけて里の熊田に田植始まる(醫局より)。(考へ様によつては醫局の歌は何時とも意味深ですな)。

四月二十七日(火) 鎌田先生東京驛御出發午後六時。

四月三十日(日) 衆議院議員總選舉。

五月一日(土) 武藤藤太郎君、青木千鶴子嬢と結婚、之れこそ、芽出度さや名譽總裁脱退し(獨身會)である。
樺太大火にて中村病院類焼、御見舞申し上ぐ。

五月七日(金) 本日より夏場所大角力。

五月八日(土) 大槻外科より小原氏來院、青山外科従前よりの懇親競技會續行したき旨、吾等賛意を表す。

五月十七日(月) 渡邊昇君、富岡茂子嬢と結婚、斯う御芽出度續きではと悲鳴をあげる。

五月三十一日(月) またく内閣總辭職。

六月五日(土) 慶早野球戰、惜敗、醫局の野球熱も近頃やゝ醒め氣味、それでも切符の五月蠅いことく。

六月七日(日) 開局紀念日、犬養、大庭、横山、森、鍋島諸先生御參會、醫局萬々歳、何時も變らぬ賑やかなる懷舊談。

六月九日(水) 鎌田先生本月五日にサンパウロ御安着との報外務省よりあり。

六月十一日(金) 午後四時より抄讀會。

六月十二日(土) 畠中卓助君撫順滿鐵醫院へ赴任の爲め、午後八時半東京驛發。

六月十六日(水) 對婦人科籠球戰二十八對九にて大勝、醫局員の熱烈なる應援。

六月十七日(木) 大沼君(海軍)、渡邊重、山田二、君(陸軍)短期軍醫とならる。

六月十九日(土) 三四會ボートレース對内科二艇身、對婦人科半艇身にて快勝す。午後六時より職員食堂にて古川君送別會、野崎君講師昇格祝賀會、大沼君壯行會を開く。

六月二十一日(月) 對豫防教室籠球戰三十八對十五にて快勝、銀八にて祝勝會。

六月二十八日(月) 高橋福三郎君急逝の通知に接し一同驚愕、哀悼おく能はず。

七月一日(木) 渡邊(重)、山田(二)兩君臨時短期軍醫として近歩三に入隊す。

七月七日(水) 蘆溝橋事件勃發、堀田君寄生蟲より歸局。

七月 九日 (金) 醫局雜談會開催、茶話會よりも少し雑なる事を話し合ふ會とす。

七月 十日 (土) 恒例の舊人對新人競泳、三田綱町プールにて舉行。舊人連の元氣物凄く快勝す。

七月 十九日 (月) 小平君アツベにて入院手術。

七月 二十六日 (月) 中野宗夫君大阪にて應召。門橋勇君應召、午後九時東京驛發、外科醫局應召最初の皮切りである。

七月 二十九日 (木) 小口宇一君應召。

八月 九日 (月) 齋藤君生理へ轉科、尾村、木本君内務省へ赴任す。

八月 十五日 (日) 岩原寅猪君應召。午後八時五十分東京驛發。

八月 十七日 (火) 在滿、北支皇軍慰問袋十個作製發送。

八月 二十五日 (水) 辻岡元君應召、擔架中隊長に任ぜらる。

小野田肇君(海軍々醫大尉)應召、東京驛發。

佐藤壽郎君應召、上野發、君は兄弟三人應召せられたりと新聞に出る。

八月 二十六日 (木) 城君召集令下るとて富士山頂救護所に出張してゐるので大騒ぎした所誤電と判明、應召したのは同君の令兄であつた。

静岡日赤志田君軍装にて醫局に挨拶に來らる。

八月 二十八日 (土) 小澤武雄君應召、上野驛發。稻葉玉六君(龍驤乗組)出發。

八月 三十日 (月) 田中周吉君(海軍々醫大尉)應召。

八月三十一日(火) 蓮江信行君(軍醫中尉)應召、二日歩一入隊。

九月九日(水) 久しく脾肉の嘆ありし竹内軍醫中尉應召、中島飛行機病院の小林不二夫君應召、共に上野驛發

(此の頃の上野驛は猛烈な見送りにて、遂に顔を見ないで汽車を送つた事も屢々あつた)。

九月十日(金) 院内第一回防空豫行演習行はる。市長小橋一太氏腸閉塞症にて特等入院。

九月十三日(月) 富田忠良軍醫中尉應召。

九月十五日(水) 藤原道純君令夫人逝去せらる。謹んでお悔み申し上げ。

九月十七日(金) 院内第二回防空豫行演習行はる。

九月十八日(土) 防空演習、病理テニスコートでは焼夷弾が燃え、擬似患者が札を付けて運搬せられる。茂木先生は救護班長、其他教授連以下總動員で各班分擔大成功裡に終る。

九月二十三日(木) 田村信介君嚴父逝去せらる。

九月二十七日(月) 整形外科集談會於東京醫師會館、西、加納、左奈田君出演す。

九月二十八日(火) 赤倉君應召、三十日淺草橋驛出發。

十月十日(日) 大槻外科との懇親野球試合、板橋養育院グラウンドにて行はる。秋日高く珍プレー續出、B組

12-2(勝)、A組10-3(敗)、C組3-2(勝)、試合後帝大山上御殿にて懇親會。

十月十一日(月) 小柴清定君に召集下りたれど程無く取消しとなる。高木宗吉君論文通過。

十月十八日(月) 抄讀會。

十月十九日(火) 小兒科の檜崎軍醫中尉戰死の報あり。謹みて哀悼の意を表す。

十月二十日(水) 同窓會員出征諸君へ慰問品を發送す。茂木先生の直筆「報國活人劍」及び看護婦諸嬢の熱誠こめて作りたる腹巻、慰問文等。

十月二十一日(木) 三四會ボートレース。對泌尿科に優勝す。

十月二十三日(土) 渡邊昇君出征。早慶野球戦3-1にて快勝。

十月二十四日(日) 早慶野球第二回戦6-1にて再勝。

十月二十八日(木) 門橋軍醫中尉、小野田海軍々醫大尉御出張にて佐世保、福山より上京、醫局を期せずして訪問相會したる陸海軍を取り巻いて、戰勝談に花咲く。日本萬歲。

十月三十一日(日) 對内科野球戦、6-1にて快勝。

十一月一日(月) 田邊、中島、長屋、城、權守の新人諸君元氣にて入營す。御健闘を祈る。

十一月六日(土) 林克巳君應召す。七日上野驛發宇都宮へ。

十一月十五日(月) 許君下谷病院出張中アツペにて同院入院手術。

十一月十六日(火) 對小兒科野球戦3-1にて惜敗。

十一月二十日(土) 加藤銀治郎君思ひがけずも大連より上京、醫局に元氣な顔を見せる。蘇州陥落し、皇軍一途南
京に向ふ。萬歲。

謹
賀
新
年

時局に鑑み同窓會々員交互の年始御挨拶は
略儀ながら本誌上を以て申述候

昭和十三年元旦

外
科
整
形
外
科
同
窓
會

A decorative rectangular border with a repeating floral or geometric pattern surrounds the central text.

同窓會々員名簿

同窓會々員名簿

(昭和十二年十二月現在入局順)
 ○印は在局者 休は休職者

氏名	住所	自宅電話及勤務先
茂木藏之助	四谷區東信濃町二八	電話四谷四五六八
犬養六郎	四谷區三光町五四	電話四谷六二一六
成松清敏	福岡縣嘉穂郡桂川村	平山鑛業所病院
柳壯一	札幌市北四條 西十五丁目一	電話二二三二 北大、柳外科 電話院用六七〇 自宅一三七〇
大庭國紀	神奈川縣鎌倉材木座	電話院用六七〇 自宅一三七〇
中村復一郎	中野區沼袋南二丁目六〇	
梅村六郎	大森區田園調布 三丁目八〇	電話田園調布二七七五 橫濱大雄山病院
木村博	麻布區筭町八〇	電話赤坂三九二五
高桑武夫	新潟縣柏崎町本町六丁目	
柴沼薫	水戸市鷹匠町六九一	電話水戸一〇四七
戸田四郎平	神奈川縣小田原 萬年町四丁目五六二	電話小田原二四〇
森信彦	神奈川縣都築郡田奈村 長津田一四二四	
阿部貞治	川崎市貝塚一一二	電話川崎三四五〇
片柳常作	深川區西平井町九三	
稻葉俊雄	茨城縣結城郡結城町二四二	
大槻正路	蒲田區新宿町五〇八	電話蒲田三一三一
町田謙二	芝區白金三光町二六九	電話高輪六六八〇
赤松常信	桐生市永樂町市役所脇	電話三六五五
高木宗吉	滿洲國安東 安東滿鐵病院	
中村武重	長野縣富士見高原療養所	
鎌田竹次郎	ブラジル、サンパウロ市日本病院 Prof. Dr. T. Kamada, alc. Consulado- geral do Japão, avenida Brigadeiro Luiz Antonio 487, São Paulo, Brasil. (Via New York)	
山田晟	昭和十年四月廿八日死亡	
山本順	小樽市小樽病院	
本郷光美	京都市東山區山科竹鼻	
關市衛	杉並區和泉町三四一	
今井金治	群馬縣伊勢崎町住吉町	
新田龜三	深川區木場三丁目八	
上石英造	宮城縣牡鹿郡石卷町新田町三九	

澤江六太郎 栃木縣栃木町萬町二丁目

篠原靜夫 杉並區阿佐ヶ谷町四丁目九〇〇 電話荻窪二〇八九

牛久昇治 大連市楓町九〇 聖愛病院

佐藤太平 靜岡市大岩宮下町七 靜岡日赤病院

林利治 滿洲國、吉林省、拉賓線新站新站陸軍病院

大曾根幾次郎 茨城縣港町六丁目 大曾根醫院

神山敏雄 滿洲國興城溫泉ホテル 興城滿鐵病院

中村勝之助 樺太真岡南濱町

近藤宗彥 澁谷區代々木深町一六六七

三橋弘 樺太大泊榮町中通廿八 三橋病院

濱野碩太郎 福井縣遠敷郡小濱町住吉八三

豐田秀穂 昭和十一年七月卅日死亡

渡邊治生 澁谷區代官山町同潤會アパート 三六ノ三三六

神野澄晴 大分縣北海郡小佐井村

吉崎純 富山縣高岡市旅籠町

竹下貫一 熊本市大江町本一二三 入隊中

高巢三四一 上海松井部隊宮城部隊荒木部隊 福岡縣山門郡瀬高町大竹 矢部川病院

駒井忠雄 品川區五反田三丁目七〇

四條龍作 八王子市八日町三一 入隊中

後藤昇 (舊姓小內昇) 山形縣大石田町

木村守江 福島縣石城郡四倉本町(留守宅) 電話四倉三五

原廣治 上海兩角部隊山口(憲)隊本部 入隊中

佐藤維秀 目黒區駒場町七九八 電話青山五二八〇

橫山虎雄 橫濱市中區尾上町三丁目三六 電話荻窪三三五四

川田正雄 杉並區清水町二一〇 電話荻窪三三五四

吉野史朗 中野區大和町一八六 中島飛行機附屬病院

中村次郎 兵庫縣西宮市川西町三四 電話北五〇六七

桑野鐵四郎 病院大阪市北區曾根崎中一丁目三〇

槍田榮 北海道釧路市富士見町望 北海道博濟病院

岩原寅猪 足利市伊勢町 電話四谷三一三六

森文雄 赤坂區青山南町三丁目四九 入隊中

松井八郎 高知陸軍病院(軍醫少尉) 電話四谷三一三六

河內野弘德 四谷區須賀町四二 東京電燈病院

濱松市三組町二八ノ一 世田ヶ谷區上馬町三ノ八九一

高橋福三郎 死亡

藤原道純 四谷區北伊賀町三三

古川明 麻布區新網町一ノ三四 川崎市佐藤病院

松橋一 愛知縣渥美郡二川町

君塚正 山形縣小松町 小松町立病院

鍋島勉 甲府市愛宕町二〇一 渡邊病院

前田和三郎 麻布區本村町二二五 電話三田八一三

村上晋 日本橋區小舟町 電話茅場町五〇八〇

關口林五郎 前橋市北曲輪町

井上太郎 杉並區高圓寺四ノ六一六 寄生蟲學教室

吉岡勝衛 品川區東大崎五ノ三

中村廣人 世田ヶ谷區下代田町八八

八木勝郎 橫濱市中區野毛町一ノ一二七 衛生學教室

土方久顯 橫濱市神奈川區篠原町三三 警友病院

百溪定七郎 世田ヶ谷區代田二丁目六八二

瀨尾省三 澁谷區千駄ヶ谷四丁目六二二

小口守一 北支香月部隊武藤部隊(軍醫少尉)入隊中

弓削中 秋田縣米內澤公立米內澤病院

小野田肇 佐世保海軍病院(海軍々醫大尉)入隊中

加藤銀次郎 大連市星ヶ浦黑石礁六七

志田元秀 北支下元部隊神谷部隊 入隊中

森下貫一 靜岡縣濱松市 靜岡日赤病院

橋本文吾 埼玉縣川越市小仙波 電話川越三七六

蓮江英男 世田ヶ谷區代田町一丁目六五ノ五

堀田善二郎 淺草區藏前三丁目一〇ノ一八

富田勝郎 荏原區下神明町四〇三

小方則太郎 世田ヶ谷區代田 寄生蟲學教室

小澤武雄 牛込區若松町五八 衛生學教室

田村信介 北支山岡部隊緒方部隊永井隊 入隊中

田中周吉 清水市村松二〇七三 (衛生見習士官)

辻岡元 吳海軍病院(海軍々醫大尉) 解剖學教室

武藤藤太郎 淺草區田中町二ノ一〇 入隊中

布留文夫 上海佐々木部隊歩兵中尉

寺田泰三 滋賀縣甲賀郡寺庄村深川市場 兵庫縣須摩區磯馴町云云兵庫縣廳衛生課

✓ 相見三郎 靜岡縣田方郡土肥町 土肥慶應堂病院
 酒井欣朗 芝區高輪南町二八 醫化學教室
 ✓ 森 豐 明 北海道俱知安南町 俱知安病院
 一條東一丁目
 細江靜男 ブラッセル、サンパウロ市
 (Caixa Postal 2976, Sao Paulo, Brasil)
 (Via. New York)
 ✓ 濱名元中 茨城縣日立鎮山本山 日立鎮山本山病院
 掛橋役宅三〇ノ一
 ✓ 若林研爾 杉並區馬橋二ノ一二三
 ✓ 神山雅臣 大森區新井宿四ノ九九電話大森一〇二八
 ✓ 成内穎三郎 滿洲國開原滿鐵醫院外科
 ✓ 森山成一 長野縣下高井郡科野村 全天堂病院
 ✓ 栗本勝之進 靜岡市安東三ノ六二 靜岡日赤病院
 ✓ 笹島彥次郎 品川區大井金子町五八三〇
 ✓ 休島田信勝 芝區赤羽橋 濟生會病院役宅 芝濟生會病院
 ✓ 明樂治部輔 橫濱市神奈川區幸ヶ谷一
 照井侃 秋田市中谷地町四四 秋田病院(入隊中)
 (上海伊佐部隊軍醫少尉)
 井手行乎 赤坂區新町四ノ一八 電話青山七二六四
 ✓ 休伊藤國男 豐島區駒込五ノ九八〇 (富士見高原療養所)
 (留守宅)

✓ 板橋剛 清水市入江岡六七八 清水市立診療所
 島中卓助 滿洲國撫順北臺町 滿鐵撫順醫院
 二ノ四ノ八
 門橋勇 福山市福山陸軍病院(軍醫中尉) 入隊中
 龍野一男 本郷區弓町一ノ二六
 中村寬 滿洲國新京安藤部隊本部軍醫部 現役軍醫
 (兼關東軍々部軍醫大尉)
 野崎寬三 目黒區洗足 電話荏原三六二〇
 一四七三ノ四
 古山實 小樽市量德町二六 小樽病院
 二ノ二八三
 小正 澁橋區西大久保 電話四谷二五五
 二ノ二八三
 齋藤脩二 澁谷區永住町一五 生理學教室
 電話青山五五〇八
 宮尾啓 滿洲國撫順滿鐵醫院
 伊藤原 中野區大和町八四 電話中野二一六七
 萩尾又八 佐賀縣佐賀郡川上村池ノ上
 大岡保司 四谷區右京町二二 理學科教室
 大塚廣 豐島區西巢鴨 康樂病院
 二ノ二五二八
 釜江省司 兵庫縣加古郡加古川町 加古川病院
 山口縣天津郡人丸(吉野方)
 高橋真雄 北支、池山部隊丹羽隊(軍醫) 入隊中
 中野宗夫

長坂謙三 小石川區久堅町六九電話小石川四二〇九
 山口恒造 大森區雪ヶ谷町三九八
 重盛福七郎 岡山市上出石町五〇 鐵道省岡山治療所
 (次田方)
 木村知孝 福井縣鯖江町下深江
 渡邊敬 岩手縣陸中國 濟生會岩泉病院
 下閉伊郡岩泉町
 佐藤憲一 滿洲國濱綏綏橫道河子 鐵路醫院
 濱松市元城町一
 山田迪 品川區大井 電話濱松二九八
 倉田町三二九七
 今井秀雄 小石川區西丸町九 芝濟生會病院
 赤坂區青山南町六ノ
 一四七(白井敏方)
 渡里隼 盛岡市加賀野春木場 藥物學教室
 岩手醫專盛岡病院
 菅千里 上海、荻洲部隊小野部隊 入隊中
 (軍醫中尉)
 竹內實 四谷區舟町六二
 鵜澤敏三 滿洲國、安東省輯安第六患者收容班
 滿洲國軍醫少校
 葛原信一 神田區神保町二ノ二二電話九段二二二六
 山田庸夫 豐島區駒込四ノ一二
 小島茂 北支、山口部隊島津隊(衛生見習士官)
 佐藤壽郎

小泉次郎 牛込區新小川町二 江戶川アパート八五號室
 久崎章 杉並區高圓寺四ノ五二七
 岩崎一平 荒川區日暮里町八ノ二〇
 蓮江信行 埼玉縣入間郡高麗村(新井八郎方)留守宅
 (上海、佐々木部隊軍醫中尉) 入隊中
 尾村偉久 大阪府北河內郡香里 警察部衛生課
 一一三一
 大木猪四郎 北支遠藤部隊北京野戰局 入隊中
 本郷區元町二ノ二七 電話小石川七九二八
 望雪館內
 渡邊仁七郎 佐世保局氣付木更津航空隊派遣
 (海軍々醫中尉) 入隊中
 中山一郎 靜岡縣濱名郡北濱村 日清紡績醫務室
 貴布禰 日清紡績社宅內
 名倉厚 四谷區須賀町三八 電話四谷三六〇八
 神戶市林田區細田町一丁目
 小林忠 濟生會林田診療所 臨時出張中
 上海荻洲部隊新村部隊移川隊 入隊中
 (衛生見習士官)
 小林不二夫 中野區橋場町三四 電話中野三七七八
 小坂慶一 淺草區雷門二ノ七(留守宅) 電話淺草
 北支、高崎部隊水間部隊 入隊中
 (衛生見習士官)
 赤倉一郎 大阪府北河內郡香里 警察部衛生課
 一一三一
 木本多喜雄 市外吉祥寺四六七 電話吉祥寺二六八
 河田清士

今井光 麻布區筭町八〇(木村方) 電話青山壹五
 稻葉玉六 橫須賀海軍工學校(海軍々醫中尉) 入隊中
 林克巳 上海派遣今野部隊(衛生見習士官) 入隊中
 西平賀健 四谷區南寺町二三
 富田忠良 錦洲陸軍病院付(軍醫中尉) 入隊中
 小田滿 豐橋陸軍教導學校(軍醫中尉) 入隊中
 加納保之 下谷區龍泉寺町四一三(日野方) 留守宅
 水戸市外村松村 村松晴嵐莊內
 晴嵐莊へ赴任
 辻岡浩 淺草區田中町 電話淺草 三六三
 二ノ一〇 小樽病院臨時出張中
 岡山市西中山下五二(留守宅) 入隊中
 南支派遣柳川兵團高澤(健)部隊本部
 名和精 杉並區高圓寺四ノ五五〇(留守宅) 入隊中
 上海、伊東部隊山川隊(軍醫中尉)
 工藤達之 瀧野川區西ヶ原町五六六(留守宅) 入隊中
 滿洲國黑河省孫吳陸軍病院
 關東軍第一野戰病院附(軍醫中尉)
 松浦勇四郎 杉並區高圓寺七ノ九六七 電話 五九三三
 (石倉方)
 松丸忍 中野 電話 五九三三
 小柴清定 目黒區下目黒三ノ六五六 電話 三四八九
 大崎
 安齋直 埼玉縣入間川町 牛込濟生會臨時出張中
 三五三三
 菊池龍介 澁谷區代官山アバート四七(中島飛行機
 臨時出張中)
 關口政三 下谷區三輪二八 電話淺草一七五九

左奈田幸夫 城東區大島町 電話本所五七三六
 三ノ四〇六(村上方)
 石川七郎 澁谷區伊達町九三 電話高輪三〇二一
 郭在禧 杉並區井荻三ノ五三
 森田正朗 豐島區駒込一ノ一三〇
 西新助 杉並區高圓寺七ノ九〇三 櫻莊アバート
 遠山一郎 岩手縣氣仙郡橫田村
 大沼良雄 澁谷區長谷部町七(平塚方) 入隊中
 (海軍々醫中尉)
 奧山俊夫 芝區三田豊岡町三二
 渡邊重男 麻布區我善坊町一ノ一 短現入隊中
 (月崎方)
 田邊重信 川崎市淺田町一ノ二八 短現入隊中
 中島三次 目黒區柿ノ木坂七三二 短現入隊中
 (吉田方)
 長屋信美 四谷區左門町四二 短現入隊中
 植草實 世田谷區世田谷町五ノ八七五(梅原方)
 久保秀夫 城東區龜戸町三ノ八四
 櫛田敏也 橫濱市鶴見區生麥四六
 (西山方)
 軍地良亮 宇都宮第五十九聯隊 短現入隊中
 軍醫候補生
 山田二郎 本郷區湯島天神町三ノ二三 短現入隊中

高	和	壽	次	杉並區高圓寺七ノ八九三後樂莊内
合	原	義	泰	淺草區象潟町二ノ一二 静岡日赤病院 臨時出張中
許	添	旺		世田谷區世田谷町五ノ八七五(梅原方)
木	村	將	義	杉並區天沼二ノ四六五
城	俊	輔		麴町區中六番町五五(小林方) 短現入隊中
權	守	英	夫	杉並區高圓寺四ノ五二七 短現入隊中
玉	村	一	雄	澁谷區千駄谷町四ノ六一七 陸軍々醫學校 軍醫大尉
千	倉	義	雄	目黒區綠ヶ丘二、三一二(富田照方)

編輯後記

小平

誌中にお詫びしました様に出征諸兄から戴いた戦線のお話を掲載出来なかつた事は誠に残念でした。又従來の刀林の誇りとも申すべき挿畫を入れず、其點全く型破りの本を拵へて仕舞つた事は私の怠慢の結果で、申譯けありません。併し幸ひに先輩諸兄の御寄稿により本誌の面目を保ち得たことは茲に厚く御禮申し上げます。微力を願ずして編輯の大任をお引受け致しましたが、實務の大半は松丸、石川、關口、高和、樺田君の御盡力に依つて成されました事を深謝致します。

昭和十二年十二月十二日印刷
昭和十二年十二月十五日發行

非賣品

不許
複製

發行者

東京市四谷區西信濃町廿二番地

慶應義塾大學醫學部
外科整形外科教室同窓會

編輯者

小平正

東京市京橋區入船町二丁目一番地

印刷人

高橋與作

東京市京橋區入船町二丁目一番地

印刷所

正進社印刷所

東京市四谷區西信濃町廿二番地

發行所

慶應義塾大學醫學部外科整形外科教室

振替口座東京二九二七五番

